4-415-894-**02**(1)

SONY

マルチチャンネル インテグレートアンプ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

STR-DH530

この取扱説明書について

この取扱説明書では、主に付属のリモコンを使った操作のしかたを説明しています。リモコンと同じ名前のボタンやつまみが本体にある場合は、本体でも同様に操作できます。

商標について

本機はドルビー * デジタルデコーダー（EX）およびドルビープロロジック（II、IIx、IIz）Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD デコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS**（DTS-ES および DTS 96/24）デコーダー、DTS-HD デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、AAC ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** 米国特許番号 5,956,674、5,974,380、6,226,616、6,487,535、7,212,872、7,333,929、7,392,195、7,272,567、その他米国および米国外で特許取得済みまたは申請中の実施権に基づき製造されています。DTS-HD、シンボル、および DTS-HD とシンボルの組み合わせは登録商標です。また DTS-HD Master Audio は DTS, Inc. の商標です。製品にはソフトウェアが含まれています。© DTS, Inc. All Rights Reserved.

本機は、High-Definition Multimedia Interface (HDMI™) 技術を搭載しています。
HDMI、HDMI ロゴ、及び High-Definition Multimedia Interface は、米国およびその他の国における HDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。

“x.v.Color”および“x.v.Color”ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

“ブラビアリンク”および“BRAVIA Link”ロゴはソニー株式会社の登録商標です。

“PlayStation”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

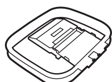
目次

同梱品

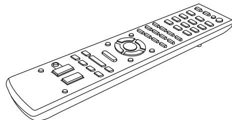
- 取扱説明書（本書）（１）
- 接続・設定ガイド（１）
- 安全のために（１）
- ソニーご相談窓口のご案内（１）
- 保証書（１）
- 製品登録のおすすめ（１）
- FM アンテナ線（1）



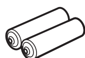
- AM ループアンテナ（1）



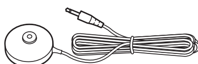
- リモコン（RM-AAU131）（1）



- 単 3 形マンガン乾電池（2）

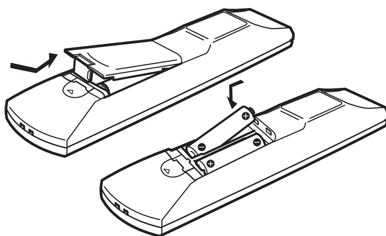


- 測定用マイク（ECM-AC2）（1）



リモコンに電池を入れる

リモコンに単 3 形マンガン乾電池（付属）2 個を入れます。
乾電池を入れる際には ⊕ と ⊖ の向きを正しく入れてください。

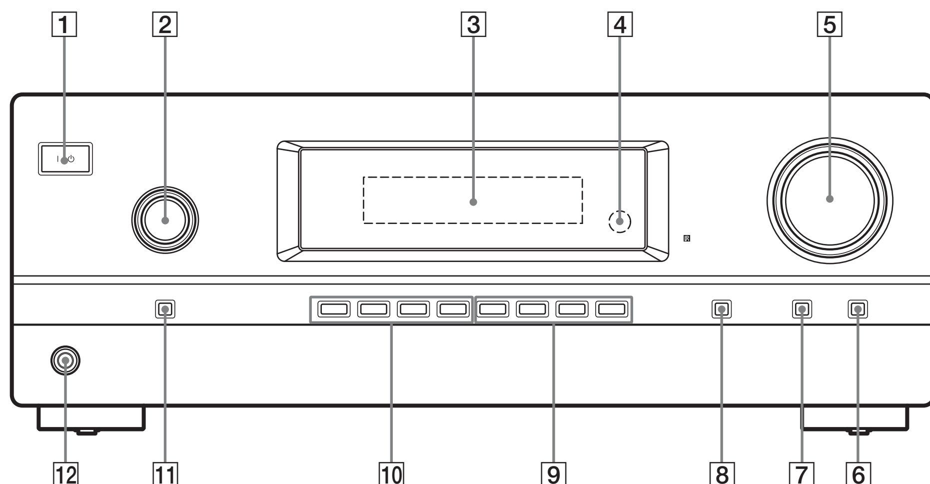


ご注意

- 極端に温度や湿度の高い場所にリモコンを放置しないでください。
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使わないでください。
- マンガン乾電池と他の種類の乾電池を混ぜて使わないでください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液もれや腐食を避けるために乾電池を取り出してください。
- 電池交換時や電池をとりはずしたときに、リモコンのボタンにプログラムした内容が消える場合があります。その場合は、再登録してください (61 ページ).
- リモコンが本機に認識されなくなったら、乾電池をすべて交換してください。

各部の名前と働き

本体前面



1 **I/⏻（電源オン／スタンバイ）（28、44 ページ）**

2 **INPUT SELECTOR つまみ（35、39、49 ページ）**

3 **表示窓（6 ページ）**

4 **リモコン受光部**
リモコンからの信号を受信します。

5 **MASTER VOLUME つまみ（34、35 ページ）**

6 **MUTING（35 ページ）**

7 **DIMMER**
表示窓の明るさを 3 段階で調整します。

8 **DISPLAY（36 ページ）**

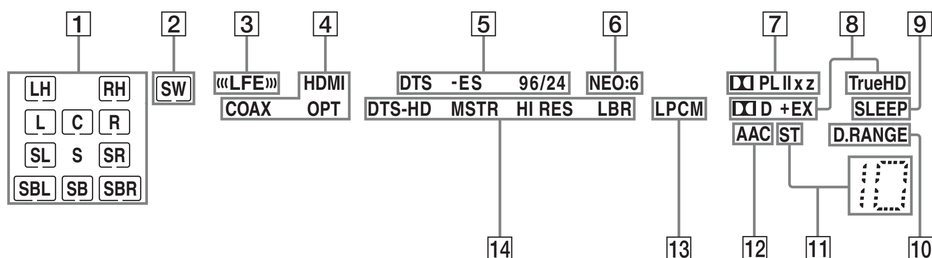
9 **2CH/A.DIRECT、A.F.D.、MOVIE/HD-D.C.S.、MUSIC（40 ページ）**

10 **TUNING MODE、TUNING +/–、MEMORY/ENTER（37 ページ）**

11 **INPUT MODE（49 ページ）**

12 **PHONES 端子**
ヘッドホンをつなぎます。

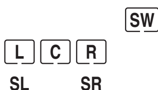
表示窓上のインジケーター



1 **再生チャンネル表示**
L、C、R などの文字は、再生中のチャンネルを表します。文字の周りの枠は、スピーカーセッティングに基づいて、本機がソース音源をどのようにダウンミックスしているかを表示します。

LH	フロントハイ左
RH	フロントハイ右
L	フロント左
R	フロント右
C	センター（モノラル）
SL	サラウンド左
SR	サラウンド右
S	サラウンド（モノラル／Pro Logic 処理されたサラウンド成分）
SBL	サラウンドバック左
SBR	サラウンドバック右
SB	サラウンドバック（6.1 チャンネル処理されたサラウンドバック成分）

例：
スピーカーパターン：3/0.1
記録形式：3/2.1
サウンドフィールド：A.F.D. AUTO



2 **SW**
音声信号が SUBWOOFER 端子から出力されているときに点灯します。

3 **LFE**
再生中のディスクに LFE（重低音効果）チャンネルがあり、実際に LFE チャンネル信号が再生されているときに、点灯します。

4 **入力表示**
現在、本機に入力されている信号を点灯表示します。

HDMI
– インプットモードが「AUTO」に設定されており、機器が HDMI IN 端子を通じて接続されている場合に点灯します。（49 ページ）
– テレビの入力がオーディオリターンチャンネル（ARC）信号を検出した場合に点灯します。

COAX
インプットモードが「AUTO」または「COAX」に設定されており、ソース信号が COAXIAL 端子からのデジタル信号である場合に点灯します（49 ページ）。

OPT
インプットモードが「AUTO」または「OPT」に設定されており、ソース信号が OPTICAL 端子からのデジタル信号である場合に点灯します（49 ページ）。

5 **DTS(-ES) 表示**
対応する DTS フォーマットの信号をデコードしているときに、該当する表示が点灯します。

DTS	DTS
DTS-ES	DTS-ES
DTS 96/24	DTS 96 kHz/24 ビット

ご注意
DTS フォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続が完了していること、およびインプットモードが「ANALOG」に設定されていないか（49 ページ）、または「A. DIRECT」が選択されていないか確認してください。

6 **NEO:6**
DTS Neo:6 Cinema/Music デコーダが働いているときに点灯します（41 ページ）。

7 **ドルビープロロジック表示**
ドルビープロロジック処理をしているときに、該当する表示が点灯します。マトリックスサラウンドデコード技術によって、入力信号を拡張することができます。

PL	Dolby Pro Logic
PL II	Dolby Pro Logic II
PL IIx	Dolby Pro Logic IIx
PL IIz	Dolby Pro Logic IIz

ご注意
スピーカーパターンの設定によっては、点灯しない場合があります。

8 **ドルビーデジタルサラウンド表示**
対応するドルビーデジタル方式の信号をデコードしているときに、該当する表示が点灯します。

D	Dolby Digital
D EX	Dolby Digital Surround EX
D+	Dolby Digital Plus
TrueHD	Dolby TrueHD

ご注意
ドルビーデジタル方式のディスクを再生するときは、デジタル接続が完了していること、およびインプットモードが「ANALOG」に設定されていないか（49ページ）、または「A. DIRECT」が選択されていないか確認してください。

9 **SLEEP**
スリープタイマーが働いているときに点灯します（11 ページ）。

10 **D.RANGE**
ダイナミックレンジの圧縮が働いているときに点灯します（57 ページ）。

11 **チューニング表示**
ラジオの放送局を受信すると点灯します。

ST
ステレオ放送



プリセットされた放送局の番号（プリセットした放送局によって変わります。）

12 **AAC**
MPEG-2 AAC 信号をデコードしているときに点灯します。

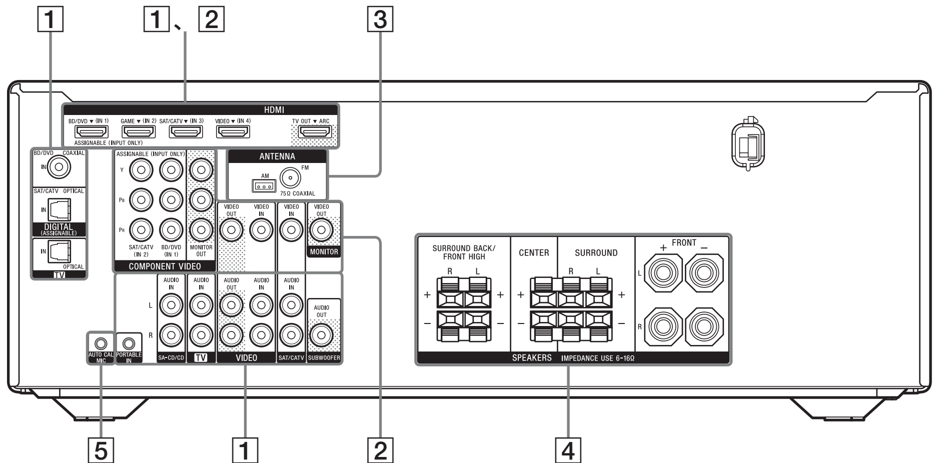
ご注意
MPEG-2 AAC はアルゴリズムです。LC（Low Complexity：低複雑度）にのみ対応しています。

13 **LPCM**
リニア PCM 信号をデコードしているときに点灯します。

14 **DTS-HD 表示**
対応する DTS-HD フォーマットの信号をデコードしているときに、該当する表示が点灯します。

DTS-HD MSTR
DTS-HD Master Audio
DTS-HD HI RES
DTS-HD High Resolution Audio
DTS-HD LBR
DTS-HD Low Bit Rate Audio

本体後面



1 音声信号部

デジタル入／出力端子（20、23、25 ページ）

HDMI 入／出力

光デジタル入力

同軸デジタル入力

アナログ入／出力端子（20、25、27 ページ）

白 (L)
赤 (R)
音声入／出力

黒　音声出力

ミニジャック入力

2 映像信号部 *

画質は接続する端子によって変わります。

デジタル入／出力端子（20、23、24、25、26 ページ）

HDMI 入／出力

コンポーネント映像入／出力端子（20、23、25 ページ）

緑 (Y)
青 (P_B)
赤 (P_R)
Y、P_B、P_R 入／出力

コンポジット映像入／出力端子（20、25、26 ページ）

黄　映像入／出力

高画質

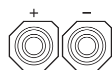
* 選んだ入力の映像を見るには、お持ちのテレビを HDMI TV OUT 端子または MONITOR OUT 端子につないでください（20 ページ）。

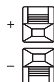
3 アンテナ入力部（27 ページ）

FM アンテナ端子

AM アンテナ端子

4 スピーカー出力部（18 ページ）





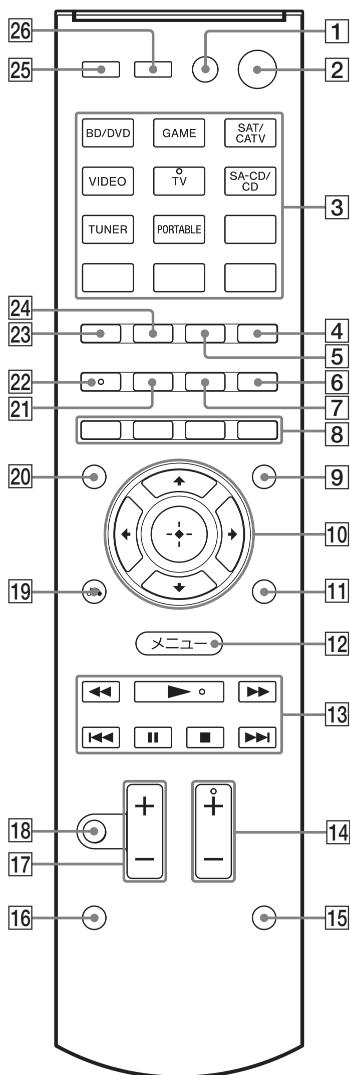
5 自動音場補正入力部（30 ページ）

自動音場補正マイク端子

リモコン

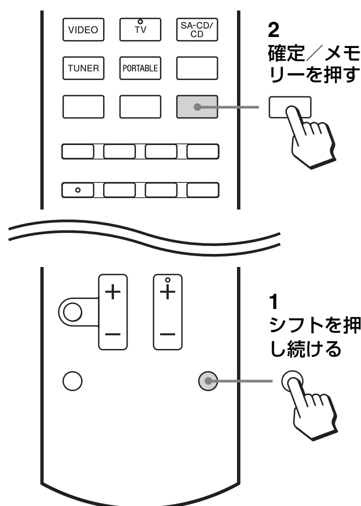
付属のリモコンを使って、本機や他の機器の操作ができます。リモコンのボタンには、ソニー製のオーディオ／映像機器用の操作があらかじめ登録されています。入力切り換え用ボタンを再登録すれば、本機に接続している他の機器を操作することができます（61 ページ）。

RM-AAU131



ピンク色で表記されたボタンを使うには

シフト（15）を押しながら、使用するピンク色表記のボタンを押します。
例：シフト（15）を押しながら、
確定／メモリー（3）を押します。



本機を操作するには

2 **電源 *（電源オン／スタンバイ）**
本体の電源をオン／スタンバイ状態にします。

スタンバイ状態にして電力消費を抑えるには
「CTRL.HDMI」を「CTRL OFF」に設定します（56 ページ）。

3 **入力切り換え用ボタン ****
使用する機器を選びます。入力切り換え用ボタンを押すと、本体の電源が入ります。各ボタンはソニー製の機器を操作できるように設定されています。

数字ボタン **
シフト（15）を押しながら、数字ボタンを押して、放送局をプリセットする、またはプリセットした放送局を選びます。

確定／メモリー
チューニング操作中にシフト（15）を押しながら、確定／メモリーを押して、放送局を登録します。

6 **画面表示**
表示窓に情報を表示します。

7 **明るさ**
表示窓の明るさを 3 段階で調整します。

9 **アンプメニュー**
本機を操作するためのメニューを表示します。

10 **⊕、↑/↓/←/→**
↑/↓/←/→ を押して設定を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定／確定します。

13 **選局 +/–**
放送局をスキャンします。

プリセット +/–
プリセットした放送局を選びます。

ダイレクト選局
ダイレクト選局モードに入ります。

14 **サウンドフィールド +**/–**
サウンドフィールドを選びます。

15 **シフト**
ボタン操作を切り換え、ピンク色で表記されたボタンを有効にします（10 ページ）。

17 **音量 +/–**
全てのスピーカーの音量を同時に調節します。

18 **消音**
一時的に音を消します。
消音を解除するときは、ボタンをもう一度押します。

19 **戻る ↶**
前のメニューに戻ります。

21 **ナイトモード**
小さな音量でも映画館のような環境を作り出すことができます。
深夜に映画をみるときに、小さな音量でも会話をはっきりと聞き取ることができます。この機能は、サウンドフィールドが選択されている場合でも使用できます。
解除するときは、ボタンをもう一度押します。

ご注意
この機能は、「A. DIRECT」が選ばれているときは働きません。

ちょっと一言
- ナイトモードは、AUDIO メニューの「NIGHT M.」でも設定できます。
- ナイトモードが有効になると、低域、高域、エフェクトレベルが上がり、「D. RANGE」が自動的に「COMP. MAX」に設定されます。

23 **自動音量**
接続している機器からの入力信号またはコンテンツに応じて音量を自動的に調節します（アドバンスドオートボリューム機能）。例えばテレビ番組よりコマーシャルの音量が大きいときなどに便利な機能です。

ご注意
- アドバンスドオートボリューム機能を切るときは、必ず事前に音量を下げてください。
- この機能は、ドルビーデジタル、DTS、リニア PCM、または AAC 信号が入力されたときのみ働くため、他のフォーマットに切り換えると、音声が急に大きくなることがあります。
- アドバンスドオートボリューム機能は以下の場合、働きません。
  – サンプリング周波数が 48 kHz より大きいリニア PCM 信号を受信している。
  – Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS 96/24、DTS-HD Master Audio、または DTS-HD High Resolution Audio 信号を受信している。

音場補正
シフト（15）を押しながら、音場補正を押して、自動音場補正機能を有効にします（30 ページ）。

24 **インプットモード**
一台の機器がデジタル端子とアナログ端子の両方につながれているときに入力モードを選択します（49 ページ）。

25 **スリープ**
設定した時間がたつと本機の電源が自動的に切れるように設定します。
ボタンを押すたびに表示が次のように切り換わります。

0-30-00 → 1-00-00 → 1-30-00 → 2-00-00 → OFF

スリープタイマーが働いているあいだは、表示窓に「SLEEP」が点灯します。

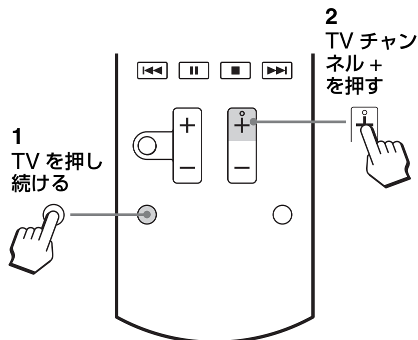
ちょっと一言
本機の電源が切れるまでの残り時間を確認するには、スリープを押すと表示窓に残り時間が表示されます。もう一度スリープを押すと、スリープタイマーが解除されます。

* AV 電源（1）および電源（2）を同時に押すと、本機と本機につないでいる機器の電源が切れます（システムスタンバイ）。入力切り換え用ボタン（3）を押すたびに、AV 電源（1）の機能は自動的に切り換わります。

** 5/TV、音声切換、► および TV チャンネル +／サウンドフィールド + ボタンには、凸点（突起）が付いています。本機を操作するときの目印としてお使いください。

ソニー製のテレビを操作するには

TV（16）を押しながら黄色で表記されたボタンを押して、機能を選びます。
例：TV（16）を押しながら、TV チャンネル +（14）を押します。



1 **TV 電源（電源オン／スタンバイ）**
テレビの電源を入／切します。

3 **数字ボタン ****
テレビのチャンネルを選びます。

確定／メモリー
選択を確定します。

4 ***d*（データ放送）**
デジタルデータ放送のオン／オフを切り換えます。

5 **CS**
110 度 CS デジタル放送に切り換えます（CS1/CS2 に切り換えるときに押します）。

6 **画面表示**
視聴中のテレビ番組に関連する情報を表示します。

8 **カラーボタン**
テレビ画面に表示されるガイドに応じて働きます。

11 **ツール／オプション**
テレビ機能のオプションを表示します。

12 **メニュー／ホーム**
テレビのメニューを表示します。

14 **TV チャンネル +**/–**
プリセットしたテレビのチャンネルをスキャンします。

17 **音量 +/–**
テレビの音量を調節します。

つづく

⑱ **消音**
テレビの消音機能を有効にします。

⑲ **戻る** ↶
前のテレビのメニューに戻ります。

⑳ **番組表**
番組表を表示します。

㉒ **音声切換 ****
二重音声モードを切り換えます。

㉓ **地上デジタル**
地上デジタル放送に切り換えます。

㉔ **BS**
BS デジタル放送に切り換えます。

㉖ **入力切換**
入力信号（テレビまたは映像）を選びます。

* AV 電源（1）および電源（2）を同時に押すと、本機と本機につないでいる機器の電源が切れます（システムスタンバイ）。入力切り換え用ボタン（3）を押すたびに、AV 電源（1）の機能は自動的に切り換わります。

** 5/TV、音声切換、► および TV チャンネル + ／サウンドフィールド + ボタンには、凸点（突起）が付いています。本機を操作するときの目印としてお使いください。

他のソニー製機器を操作するには

シフト（15）を押しながら、使用するピンク色表記のボタンを押します（10 ページ）。

	ボタン名	ブルーレイディスクプレーヤー／レコーダー、DVD プレーヤー	BS デジタルチューナー、デジタル CS チューナー、ケーブルテレビチューナー	ビデオデッキ	CD プレーヤー
1	**AV 電源 ***	電源	電源	電源	電源
3	**数字ボタン ****	トラック	チャンネル	チャンネル	トラック
	確定／メモリー	確定	確定	確定	確定
	クリア	消去	チャンネル 11	–	トラック > 10
4	**ポップアップ／メニュー**	メニュー	–	–	–
5	**トップメニュー**	画面上のガイド	–	–	–
6	**画面表示**	表示	表示	表示	表示
8	**カラーボタン**	メニュー、ガイド	メニュー、ガイド	–	–
10	⊕	確定	確定	確定	–
	↑/↓/←/→	選択	選択	選択	–
11	**ツール／オプション**	オプションメニュー	オプションメニュー	–	–
12	**メニュー／ホーム**	メニュー	メニュー	メニュー	–
13	◀◀/▶▶	順方向検索／逆方向検索	–	早送り、巻き戻し	早送り、巻き戻し
	▶**	再生	–	再生	再生
	⏮/⏭	トラックをスキップ	–	インデックス検索	トラックをスキップ
	❚❚	一時停止	–	一時停止	一時停止
	■	停止	–	停止	停止
19	**戻る** ↶	戻る	戻る	–	–
20	**番組表**	番組スケジュール	ガイドメニュー	–	–
22	**音声切換 ****	音声	音声	–	–
26	**入力切換**	入力選択	–	入力選択	–

* AV 電源（1）および電源（2）を同時に押すと、本機と本機につないでいる機器の電源が切れます（システムスタンバイ）。入力切り換え用ボタン（3）を押すたびに、AV 電源（1）の機能は自動的に切り換わります。

** 5/TV、音声切換、▶ および TV チャンネル + ／サウンドフィールド + ボタンには、凸点（突起）が付いています。本機を操作するときの目印としてお使いください。

ご注意

- 上記の説明は例としてあげています。
- つないでいる機器の機種によっては、付属のリモコンで操作しても、ここで説明されている機能の一部が働かないことがあります。

はじめに

以下の手順にしたがって簡単に本機につないだ音声／映像機器を再生できます。
コード類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。

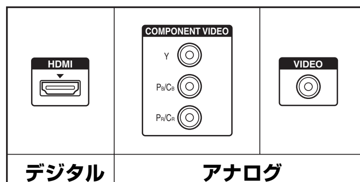
スピーカーを設置／接続する（16、18 ページ）



機器に合った接続を確認する

テレビおよび映像機器を接続する（20、21 ページ）

画質は接続する端子によって変わります。下の図をご覧になり、機器の端子に合った接続を選んでください。
お持ちの映像機器に HDMI 端子がある場合は、HDMI 端子経由で接続することをおすすめします。





オーディオ機器を接続する（27 ページ）



本機の準備をする

「6：電源コードを接続する」（28 ページ）および「本機の初期設定を行う」（28 ページ）をご覧ください。



スピーカーを設定する

スピーカーパターン（29 ページ）を選んだあと、自動音場補正（30 ページ）を実行します。
LEVEL メニュー（34 ページ）の「T. TONE」で、スピーカー接続を確認できます。音声が正しく出力されない場合は、スピーカー接続を確認し、上記の設定をもう一度行ってください。



接続機器の音声出力を設定する

マルチチャンネルデジタル音声を出力するには、接続機器のデジタル音声の出力設定を確認してください。
ソニー製ブルーレイディスクレコーダー／プレーヤーの場合は、「HDMI 音声出力」、「ドルビーデジタル」、および「DTS」がそれぞれ「自動」、「ドルビーデジタル」、および「DTS」に設定されていることを確認してください（2011 年 9 月 1 日現在）。
PlayStation®3 の場合は、「BD/DVD 音声出力フォーマット（HDMI）」および「BD 音声出力フォーマット（光デジタル）」が、「ビットストリーム」に設定されていることを確認してください（システムソフトウェア 3.70 の場合）。
詳しくは、接続機器に付属の取扱説明書を参照してください。

本機が再生できるデジタル音声フォーマット

本機がデコードできるデジタル音声フォーマットは、接続機器のデジタル音声出力端子によって異なります。本機は以下の音声フォーマットに対応しています。

音声フォーマット	**最大チャンネル数**	**本機と再生機との接続**	
		COAXIAL/ OPTICAL	**HDMI**
ドルビーデジタル	5.1	○	○
Dolby Digital EX	6.1	○	○
Dolby Digital Plus [a]	7.1	×	○
Dolby TrueHD [a]	7.1	×	○
DTS	5.1	○	○
DTS-ES	6.1	○	○
DTS 96/24	5.1	○	○
DTS-HD High Resolution Audio [a]	7.1	×	○
DTS-HD Master Audio [a][b]	7.1	×	○
MPEG-2 AAC (LC)	5.1	○	○
マルチチャンネルリニアPCM [a]	7.1	×	○

[a] 再生機器が上記のフォーマットに対応していない場合は、音声信号は別のフォーマットで出力されます。詳しくは、再生機器の取扱説明書を参照してください。

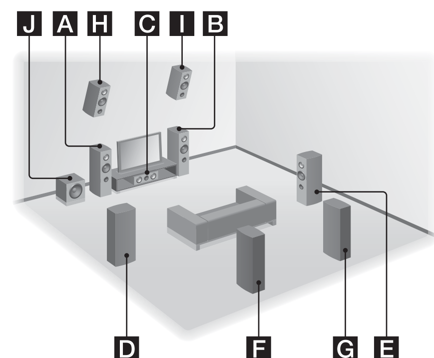
[b] サンプリング周波数が 96 kHz より大きい信号は、96 kHz または 88.2 kHz で再生されます。

接続

1：スピーカーを設置する

本機では、7.1 チャンネルのスピーカーシステム（スピーカー 7 本とアクティブサブウーファー 1 本）を構成できます。

スピーカーシステムの設置例



A フロントスピーカー（左）
B フロントスピーカー（右）
C センタースピーカー
D サラウンドスピーカー（左）
E サラウンドスピーカー（右）
F サラウンドバックスピーカー（左）*
G サラウンドバックスピーカー（右）*
H フロントハイスピーカー（左）*
I フロントハイスピーカー（右）*
J アクティブサブウーファー

* サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカーを同時に使用することはできません。

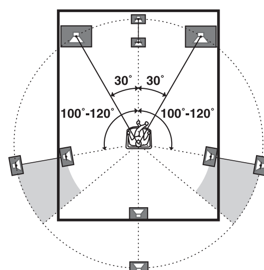
5.1 チャンネルスピーカーシステム

映画館のようなマルチチャンネルのサラウンド音声を充分に楽しむには、5 本のスピーカー（フロントスピーカー：2 本、センタースピーカー：1 本、サラウンドスピーカー：2 本）およびアクティブサブウーファーが必要です。

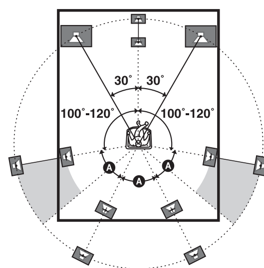
7.1 チャンネルスピーカーシステム（サラウンドバックスピーカー接続）

DVD やブルーレイソフトに記録された 6.1 チャンネルまたは 7.1 チャンネルフォーマットの音声を忠実に再現することができます。

- 6.1 チャンネルスピーカーの配置
  サラウンドバックスピーカーをリスニングポジションの真後ろに配置します。



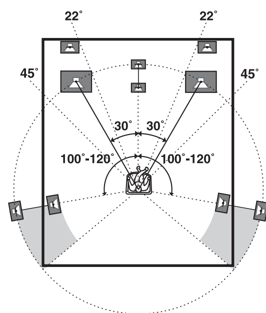
- 7.1 チャンネルスピーカーの配置
  サラウンドバックスピーカーを下の図のように配置します。A の角度はなるべく同じにします。



7.1 チャンネルスピーカーシステム（フロントハイスピーカー接続）

Dolby Pro Logic IIz モードでフロントハイスピーカーをさらに 2 本接続することで、垂直方向のサウンドエフェクトを楽しむことができます（41 ページ）。
フロントハイスピーカーを以下の角度と高さで配置します。

– 角度：22 ～ 45°
– 高さ：フロントスピーカーの真上 1 m 以上

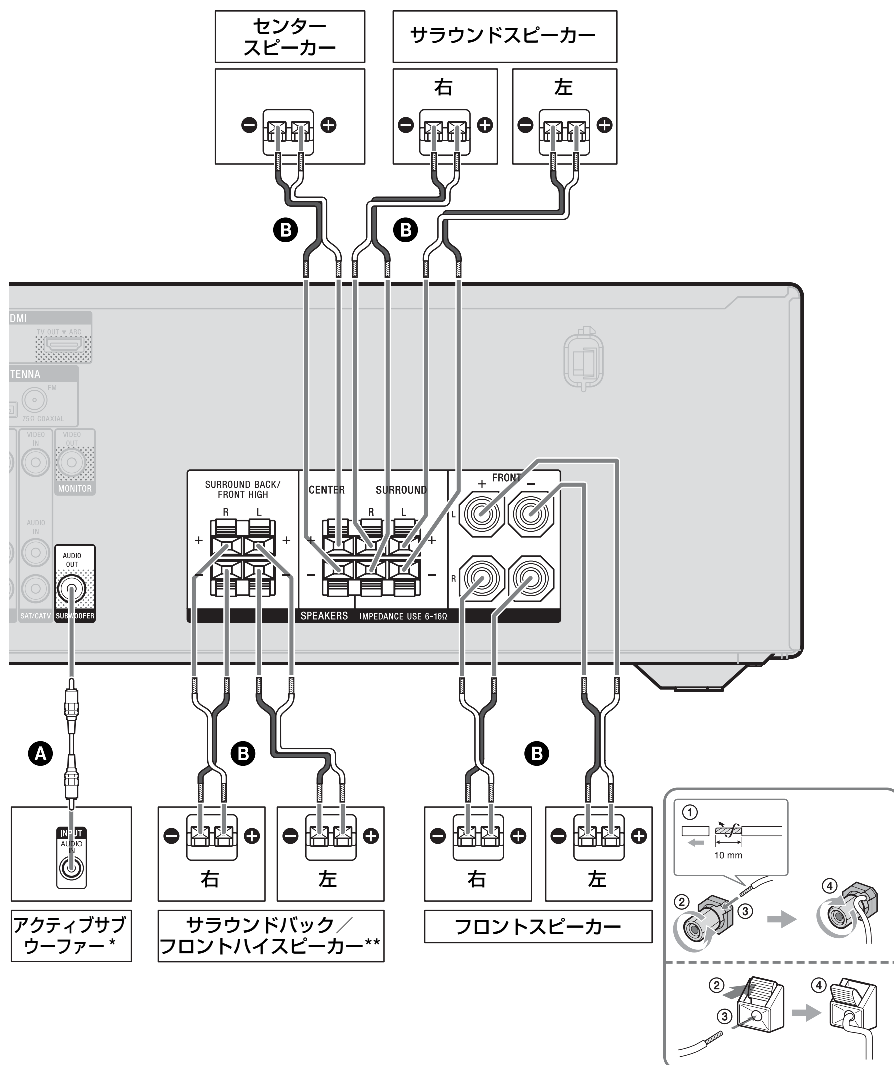


ちょっと一言

アクティブサブウーファーが発する信号には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

2：スピーカーを接続する

コード類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。



Ⓐモノラル音声コード（別売）
Ⓑスピーカーコード（別売）

* オートスタンバイ機能があるアクティブサブウーファーをお使いの場合、映画鑑賞中はオートスタンバイ機能を OFF にしてください。オートスタンバイ機能が ON になっていると、アクティブサブウーファーへの入力信号のレベルによって自動的にスタンバイ状態になり、音が出なくなることがあります。

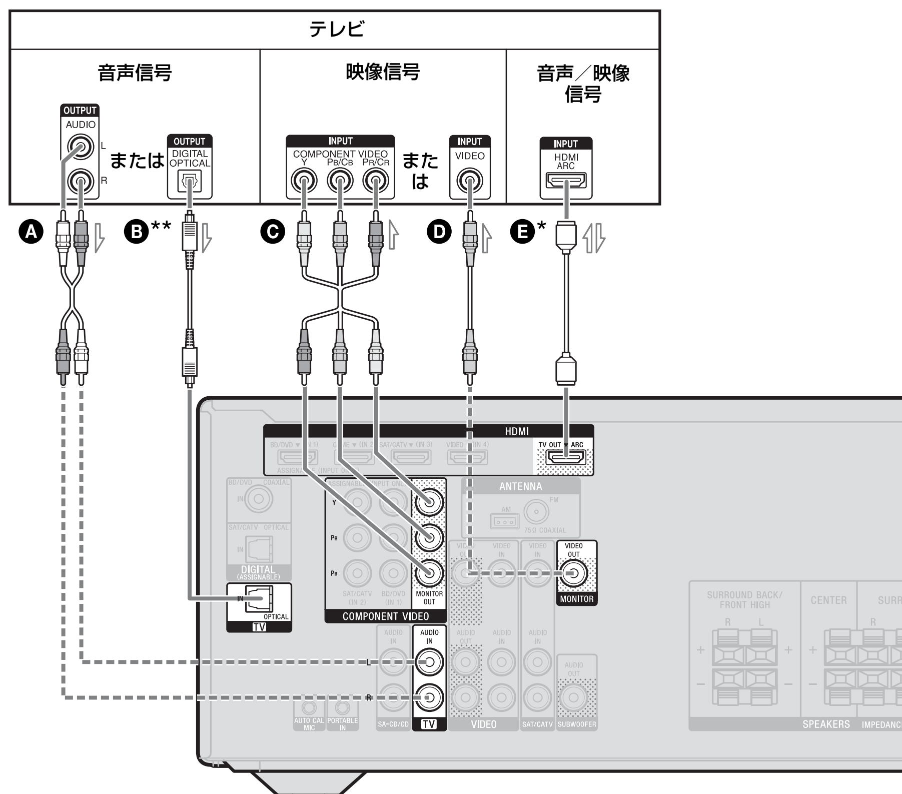
** サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用するときは、SPEAKERS SURROUND BACK/FRONT HIGH L 端子につないでください。

ご注意

- 電源コードをつなぐ前に、スピーカーコードの金属線同士が SPEAKERS 端子間で接触しないようにご注意ください。
- スピーカーの設置および接続後は、必ず SPEAKER メニューからスピーカーパターンを選んでください（29 ページ）。

3：テレビを接続する

コード類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。



―― 推奨接続
----- 代替接続

Ⓐ音声コード（別売）
Ⓑ光デジタルコード（別売）
Ⓒコンポーネント映像コード（別売）
Ⓓ映像コード（別売）
ⒺHDMI ケーブル（別売）
HDMI 認証ケーブルまたはソニー製の HDMI ケーブルの使用をおすすめします。

本機からマルチチャンネルサラウンド音声でテレビ放送を楽しむには

* お持ちのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応している場合は、Ⓔ をつないでください。
必ず HDMI メニューで「CTRL.HDMI」を「CTRL ON」に設定してください（56 ページ）。HDMI ケーブル以外のコード（光デジタルコードまたは音声コードなど）を使用して音声信号を選択する場合は、インプットモードで音声入力モードを切り換えてください（49 ページ）。

** お持ちのテレビが ARC 機能に対応していない場合は、Ⓑ をつないでください。

必ず事前にテレビの音量をオフにするか、または消音機能を有効にしてください。

ご注意
- テレビのモニターまたはプロジェクターは、本機の HDMI TV OUT または MONITOR OUT 端子につないでください。録画機器を接続しても録画できないことがあります。
- テレビとアンテナの接続状態によっては、テレビ画面の映像が乱れることがあります。このような場合は、アンテナを本機からさらに離れたところに設置してください。
- 光デジタルコードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタルコードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ちょっと一言
- デジタル音声端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、および 96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。
- テレビの音声出力端子を本機の TV IN 端子につないで、テレビの音声を本機につないだスピーカーから出力するときは、テレビの音声出力端子が「Fixed」または「Variable」で切り換え可能な場合は、テレビの音声出力端子を「Fixed」に設定してください。

4a：映像機器を接続する

HDMI 接続を使用する

HDMI (High-Definition Multimedia Interface) は映像および音声信号をデジタルフォーマットで伝送するインターフェースです。
ソニー“ブラビアリンク”機能に対応している機器を HDMI ケーブルでつなぐと、操作が簡単になります。「“ブラビアリンク”機能」（44 ページ）をご覧ください。

HDMI の特長

- HDMI で転送されたデジタル音声信号を本機につないだスピーカーから出力できます。この信号は、ドルビーデジタル、DTS、リニア PCM、AAC に対応しています。詳しくは、「本機が再生できるデジタル音声フォーマット」（15 ページ）をご覧ください。
- 本機は、HDMI 接続により、マルチチャンネルリニア PCM（最大 8 チャンネル）を 192 kHz 以下のサンプリング周波数で受信することができます。
- 本機は High Bitrate Audio (DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD)、Deep Color、x.v.Color および 3D 伝送に対応しています。
- 3D 映像を楽しむには、3D 表示に対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクプレーヤー／レコーダー、PlayStation®3 など）と本機をハイスピード HDMI ケーブルでつなぎ、3D メガネを装着したうえで、3D 対応のコンテンツを再生してください。

HDMI 接続についてのご注意

- HDMI IN 端子に入力された音声信号は、SPEAKERS 端子、HDMI TV OUT 端子および PHONES 端子から出力されます。上記以外の音声端子からは出力されません。

つづく

- HDMI IN 端子に入力された映像信号は、HDMI TV OUT 端子からのみ出力されます。映像入力信号を VIDEO OUT 端子または MONITOR OUT 端子から出力することはできません。
- スーパーオーディオ CD の DSD 信号は入力／出力されません。
- テレビまたは映像機器によっては、3D の映像が表示されないことがあります。
- 詳しくは、各接続機器の取扱説明書をご覧ください。

ケーブルの接続について

- コード類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。
- すべてのコードをつなぐ必要はありません。接続する機器の端子に合わせて接続してください。
- ハイスピード HDMI ケーブルをご利用ください。スタンダード HDMI ケーブルの場合、1080p、Deep Color または 3D の映像が正しく表示できない場合があります。
- HDMI-DVI 変換ケーブルの使用はおすすめしません。HDMI-DVI 変換ケーブルで DVI-D 機器をつないだ場合、音声や映像が出力されないことがあります。音声が正しく出力されない場合は、別の音声コードやデジタル接続コードでつなぎ、AUDIO メニューにある「A. ASSIGN」（50 ページ）の設定を行ってください。
- 光デジタルコードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタルコードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

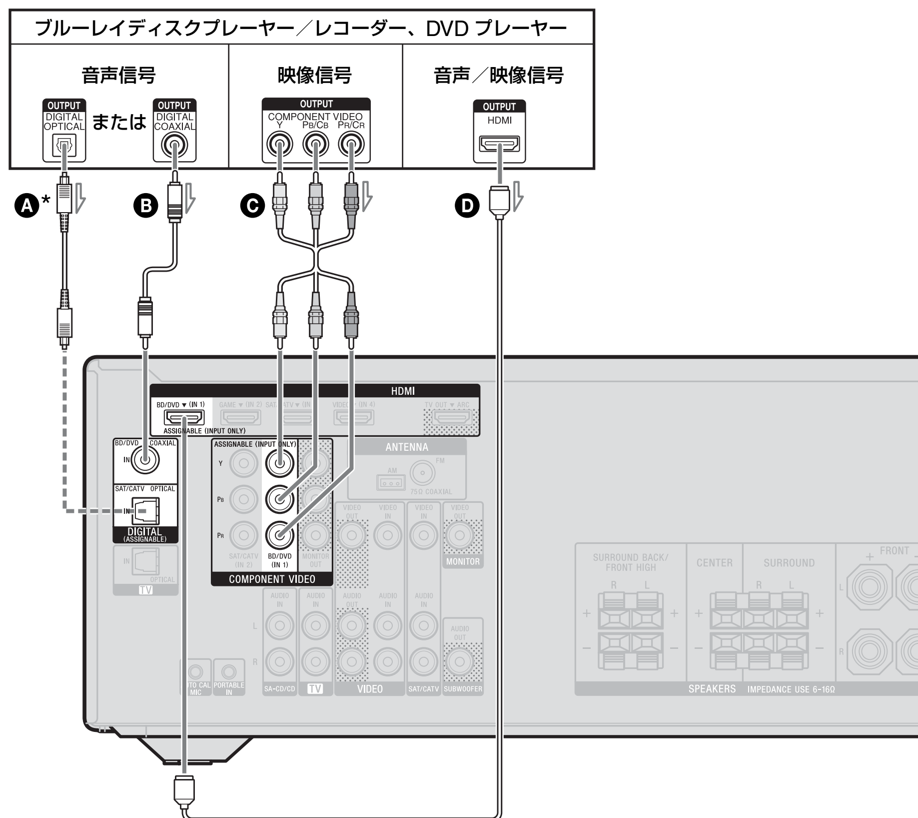
ちょっと一言

デジタル音声端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、および 96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。

複数のデジタル機器を同時につなぎたいときに、空いている入力端子がない場合は

「他の映像／音声入力端子を使う」（50 ページ）をご覧ください。

ブルーレイディスクプレーヤー／レコーダー、DVD プレーヤーを接続する



——— 推奨接続
----- 代替接続

Ⓐ光デジタルコード（別売）
Ⓑ同軸デジタルコード（別売）
Ⓒコンポーネント映像コード（別売）
ⒹHDMI ケーブル（別売）

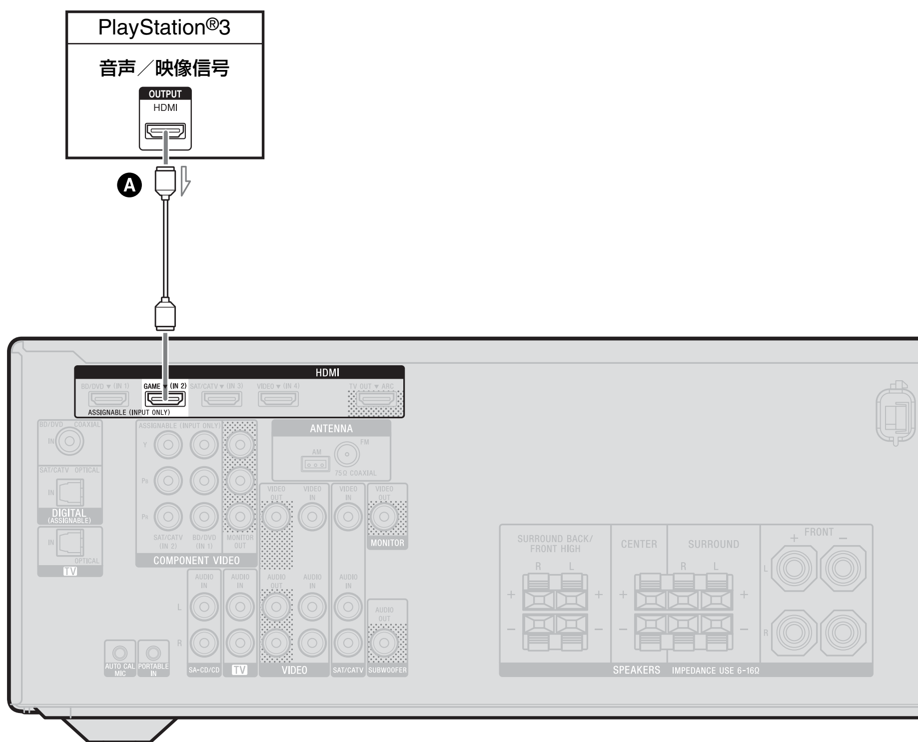
HDMI 認証ケーブルまたはソニー製の HDMI ケーブルの使用をおすすめします。

* 機器を OPTICAL 端子につなぐときは、AUDIO メニューにある「A. ASSIGN」の設定を行ってください（50 ページ）。

ご注意

- 必ずリモコンの BD/DVD 入力切り換え用ボタンの初期設定を変更し、お持ちのブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーを操作できるようにしてください。詳しくは、「入力切り換え用ボタンの割り当てを変更する」（61 ページ）をご覧ください。
- BD/DVD 入力の名前を変更して、本機の表示窓に表示させることもできます。詳しくは、「入力に名前を付ける」（35 ページ）をご覧ください。

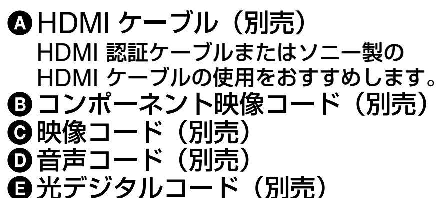
PlayStation®3 を接続する



A HDMI ケーブル（別売）

HDMI 認証ケーブルまたはソニー製の
HDMI ケーブルの使用をおすすめします。

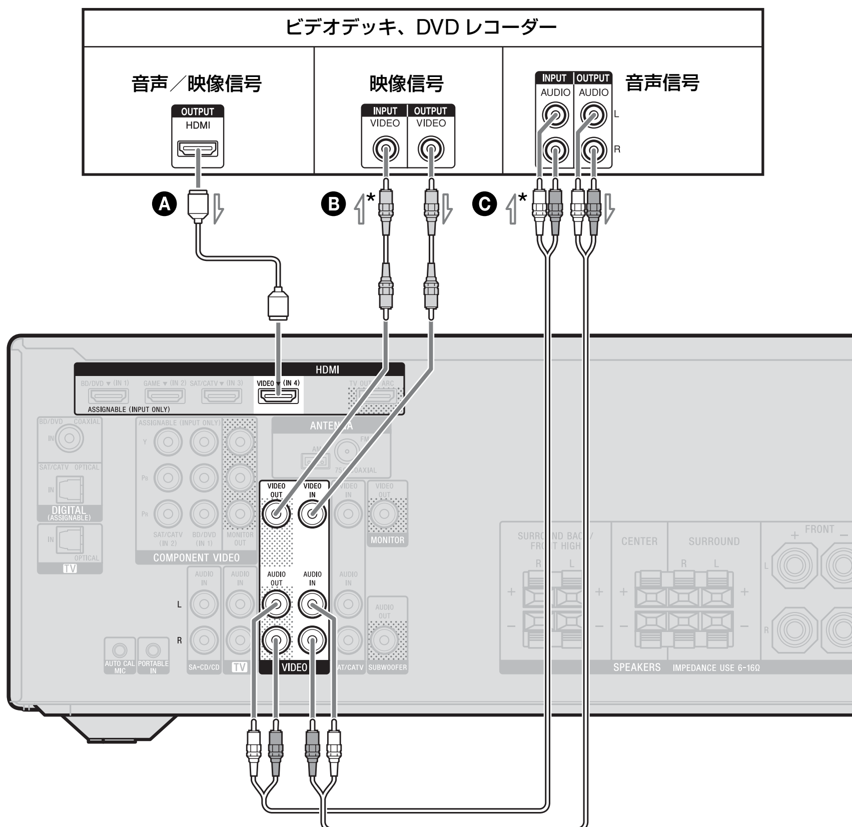
BS デジタル／デジタル CS チューナー、ケーブルテレビチューナーを接続する



Ⓐ HDMI ケーブル（別売）
HDMI 認証ケーブルまたはソニー製の
HDMI ケーブルの使用をおすすめします。
Ⓑ コンポーネント映像コード（別売）
Ⓒ 映像コード（別売）
Ⓓ 音声コード（別売）
Ⓔ 光デジタルコード（別売）

―― 推奨接続
----- 代替接続

ビデオデッキ、DVD レコーダーを接続する



❶ **HDMI ケーブル（別売）**
HDMI 認証ケーブルまたはソニー製の HDMI ケーブルの使用をおすすめします。

❷ **映像コード（別売）**

❸ **音声コード（別売）**

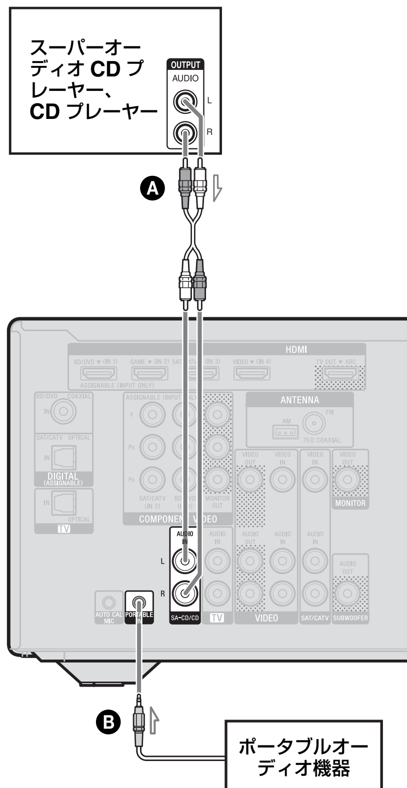
ご注意

必ずリモコンの VIDEO 入力切り換え用ボタンの初期設定を変更し、お持ちの DVD レコーダーを操作できるようにしてください。詳しくは、「入力切り換え用ボタンの割り当てを変更する」（61 ページ）をご覧ください。

* 録画したいときは、この接続を行ってください（37 ページ）。

4b：オーディオ機器を接続する

コード類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。



A 音声コード（別売）
B ステレオヘッドホン端子付きRCAケーブル（別売）

ご注意

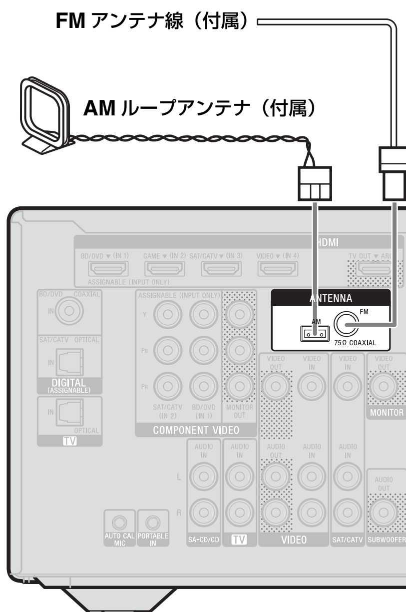
- PORTABLE IN 端子につないだ機器の音声を視聴する場合、音声が歪んだり、途切れたりすることがあります。これは故障ではありません。音声の出力状態はつないでいる機器に応じて異なります。
- PORTABLE IN 端子につないだ機器の音声が小さすぎる場合は、音量を上げてください。他の入力に切り換える場合は、スピーカーを傷めないよう必ず事前に音量を下げてください。

ちょっと一言

MP3 やその他の圧縮された音源の場合は、「P. AUDIO」サウンドフィールドの使用をおすすめします。

5：アンテナを接続する

アンテナをつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。

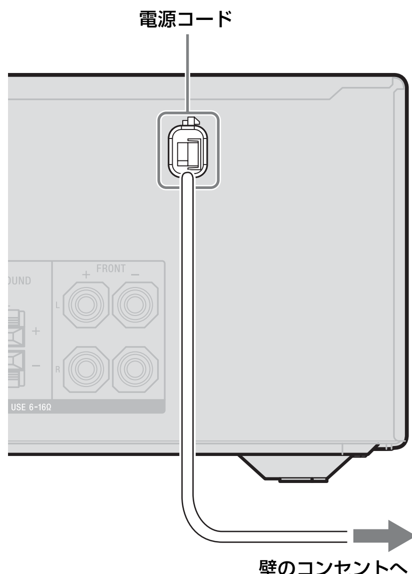


ご注意

- ノイズが入らないよう、AM ループアンテナは本機および他の機器から離して設置してください。
- FM アンテナ線は必ず完全に伸ばしてください。
- FM アンテナ線を接続したら、できるだけ水平になるように設置してください。

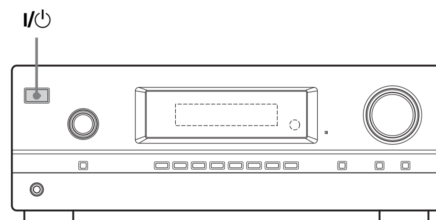
6：電源コードを接続する

電源コードを壁のコンセントにつなぎます。



本機の初期設定を行う

本機を初めてお使いになるときは、以下の手順で本機を初期設定状態にしてください。また、本機をお買い上げ時の状態に戻したいときも、以下の手順を行ってください。
この操作は必ず本体のボタンを使って行ってください。



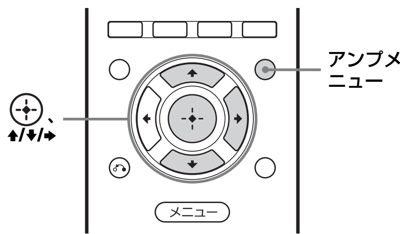
1 I/⏻ を押して本機の電源を切る。

2 I/⏻ を 5 秒間押し続ける。

表示窓に「CLEARING」と表示されたあと、「CLEARED」と表示されます。
初期設定から変更、調整された設定はすべて初期化されます。

スピーカーパターンを選ぶ

お使いのシステムに合わせたスピーカーパターンを選びます。



1 **アンプメニューを押す。**

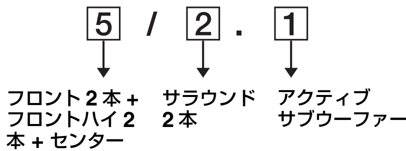
2 **↑/↓ をくり返し押して、「SPKR」を選び、⊕または → を押す。**

3 **↑/↓ をくり返し押して、「PATTERN」を選び、⊕または → を押す。**

4 **↑/↓ をくり返し押して、お好みのスピーカーパターンを選び、⊕を押す。**

スピーカーパターンの設定

例：



スピーカーパターン	フロント左／右	フロントハイ左／右	センター	サラウンド左／右	サラウンドバック左	サラウンドバック右	アクティブサブウーファー
5/2.1	○	○	○	○	–	–	○
5/2	○	○	○	○	–	–	–
4/2.1	○	○	–	○	–	–	○
4/2	○	○	–	○	–	–	–
3/4.1	○	–	○	○	○	○	○
3/4	○	–	○	○	○	○	–
2/4.1	○	–	–	○	○	○	○
2/4	○	–	–	○	○	○	–
3/3.1	○	–	○	○	○	–	○
3/3	○	–	○	○	○	–	–
2/3.1	○	–	–	○	○	–	○
2/3	○	–	–	○	○	–	–
3/2.1	○	–	○	○	–	–	○
3/2	○	–	○	○	–	–	–
2/2.1	○	–	–	○	–	–	○
2/2	○	–	–	○	–	–	–
3/0.1	○	–	○	–	–	–	○
3/0	○	–	○	–	–	–	–
2/0.1	○	–	–	–	–	–	○
2/0	○	–	–	–	–	–	–

自動音場補正機能を使う

本機には、DCAC（Digital Cinema Auto Calibration（自動音場補正））機能が搭載されているため、以下のような自動補正を行うことができます。
- 各スピーカーと本機の接続の確認 *
- スピーカーレベルの調整
- 各スピーカーと視聴位置の距離の測定 *
- スピーカーサイズの測定 *
- 周波数特性の測定 *

* 測定結果は、「A. DIRECT」が選ばれているときは使用できません。

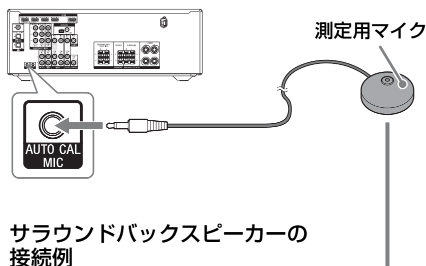
DCAC は視聴環境に合わせて最適な音声バランスを実現するためのものです。スピーカーのレベルはお好みに合わせて手動で調節できます。詳しくは、「スピーカーレベルを調整する （テストトーン）」（34 ページ）をご覧ください。

自動音場補正を実行する前に

自動音場補正を実行する前に以下の項目を実行してください。
- スピーカーを設定および接続する（16、18 ページ）。
- AUTO CAL MIC 端子には付属の測定用マイクのみをつなぐ。この端子には上記以外のマイクをつながないでください。
- ヘッドホンを抜く。
- 測定エラーを避けるため、測定用マイクとスピーカーの間にある障害物を取り除く。
- 周囲が騒音のない静かな状態であることを確認してから、正確に測定する。

ご注意
- 補正中はスピーカーから大きな音が出ますが、音量を調節することはできません。自動音場補正を実行するときは、隣近所や周囲の子供に充分配慮してください。
- 自動音場補正を実行する前に消音機能が作動している場合は、自動的にオフになります。
- ダイポールスピーカーなど、特殊なスピーカーを使用している場合は、正しい測定が行えない、または自動音場補正を実行できないことがあります。

1：自動音場補正を設定する



サラウンドバックスピーカーの接続例

1 スピーカーパターンを選ぶ（29 ページ）。

フロントハイスピーカーを接続する場合、自動音場補正を実行するたびに、フロントハイスピーカー（5/■.■ または 4/■.■）ありのスピーカーパターンを選んでください。
フロントハイスピーカーなしのスピーカーパターンが選ばれていると、フロントハイスピーカーの特性は測定されません。

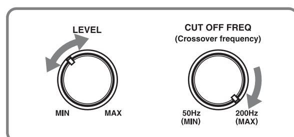
2 AUTO CAL MIC 端子に付属の測定用マイクをつなぐ。

3 測定用マイクを設定する。

視聴位置に測定用マイクを設置してください。スツールまたは三脚を使用して、測定用マイクが耳の位置と同じ高さになるようにしてください。

アクティブサブウーファーの設定を確認する

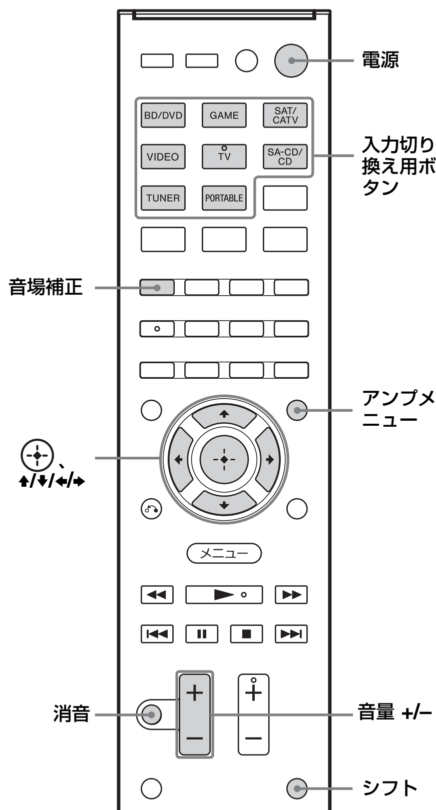
- アクティブサブウーファーをつないでいる場合は、事前に電源を入れて、音量を上げておいてください。音量は、LEVEL つまみを半分よりやや小さめの位置にしてください。
- クロスオーバー周波数の設定機能があるアクティブサブウーファーをつないでいる場合は、最大に設定してください。
- オートスタンバイ機能があるアクティブサブウーファーをつなぐ場合は、オートスタンバイ機能をオフ（無効）にしてください。



ご注意

お使いになるアクティブサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の位置と異なることがあります。

2：自動音場補正を実行する



シフトを押しながら、音場補正を押す。

5 秒以内に測定が始まります。
測定が完了するのにおよそ 30 秒かかります。

つづく

下の表は、表示窓に表示される測定状況を示しています。

測定対象	表示
スピーカーの有無	TONE
スピーカーのゲイン、距離、周波数応答	T. S. P.*
アクティブサブウーファーのゲイン、距離	WOOFER*

* 測定中は、表示窓の該当するスピーカー表示が点灯します。

ちょっと一言
- 自動音場補正は、AUTO CAL メニューの「START」からも実行できます（53 ページ）。
- 距離を表示する単位は、SPEAKER メニューの「DIST.UNIT」で変更することができます（58 ページ）。

自動音場補正を中止するには

測定中に以下の操作を行うと自動音場補正機能がキャンセルされます。
– 電源を押す。
– 入力切り換え用ボタンを押す、または本機の INPUT SELECTOR つまみを入にする。
– 音量を調節する。
– 消音を押す。
– ヘッドホンをつなぐ。
– 音場補正をもう一度押す。

3：測定結果を確認／保存する

1 測定結果を確認保存する。

測定が終了したら、ビープ音とともに結果が表示窓に表示されます。

測定 [表示]	手順
適切に終了 [SAVE.EXIT]	手順 2 に進む
失敗 [E - ■■■ ■■]	「エラーコードが表示される場合は」（33 ページ）をご覧ください。

2 測定結果を確認する。

↑/↓ をくり返し押して、項目を選択してください。次に、⊕を押します。
- EXIT
  測定結果を保存せずに設定を終了します。
- WARN CHK
  測定結果に関連する警告を表示します。「警告メッセージを確認する」（33 ページ）をご覧ください。
- SAVE.EXIT
  測定結果を保存し、設定を終了します。
- RETRY
  自動音場補正を再度実行します。

3 測定結果を確認保存する。

手順 2 で「SAVE.EXIT」を選択します。
表示窓に「COMPLETE」と表示され、設定が保存されます。

4 補正タイプを選ぶ。

↑/↓ をくり返し押して、補正タイプを選び、⊕を押します。
- FULL.FLAT
  各スピーカーの周波数特性を平らにします。
- ENGINEER
  ソニー基準のリスニングルームの周波数特性にします。
- FRONT.REF
  すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせます。
- OFF
  自動音場補正機能のイコライザーをオフにします。

ちょっと一言
自動音場補正を実行して設定を保存したあと、AUTO CAL メニューの「CAL TYPE」で補正タイプを選ぶこともできます。

5 本機から測定用マイクを外す。

ご注意

スピーカーの配置を変えた場合、サラウンド音声を楽しむには、自動音場補正をもう一度実行することをおすすめします。

ちょっと一言

スピーカーのサイズ（LARGE/SMALL）は、低周波特性によって決まります。
測定結果は、測定用マイクとスピーカーの位置、および測定を行う部屋の形状によって変わります。測定結果のまま使うことをおすすめしますが、これらの設定は、SPEAKER メニューで変更することができます（54 ページ）。まず測定結果を保存してから、設定を変更するようにしてください。

エラーコードが表示される場合は

1 エラーの原因を確認する。

表示と説明
E - 32 **E - ■■■* 33** • スピーカーが検出されない、または正しくつながれていません。 – フロントスピーカーがつながっていない、またはフロントスピーカーが 1 本しかつながっていません。 – 左か右どちらかのサラウンドスピーカーがつながっていません。 – サラウンドスピーカーがつながっていないのに、サラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーがつながっています。サラウンドスピーカーを SPEAKERS SURROUND 端子につないでください。 – サラウンドバックスピーカーが SPEAKERS SURROUND BACK/ FRONT HIGH R 端子にのみつながっています。サラウンドバックスピーカーを 1 つだけつなぐときは、SPEAKERS SURROUND BACK/ FRONT HIGH L 端子につないでください。 – フロントハイスピーカーの左右いずれかがつながっていません。 • 測定用マイクがつながっていません。測定用マイクが正しくつながれていることを確認して、自動音場補正をもう一度実行してください。測定用マイクが正しくつながっているにもかかわらず、エラーコードが表示される場合は、測定用マイクのケーブルが損傷している可能性があります。

* ■■■ はスピーカーチャンネルを表します。

F	フロント
S	サラウンド
SB	サラウンドバック
FH	フロントハイ

エラーコードによっては、スピーカーチャンネルが表示されない場合があります。

2 自動音場補正を再度実行する。

⊕を押します。表示窓に「RETRY Y」と表示されたら、⊕を押します。

3「3：測定結果を確認／保存する」（32 ページ）の手順を繰り返す。

警告メッセージを確認する

測定結果に警告が含まれている場合は、詳しい内容が表示されます。

表示と説明
W - 40 測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。周囲が静かな状態で再測定を行うと、測定結果が改善される場合があります。
W - 41 **W - 42** 測定用マイクからの入力が過大です。スピーカーと測定用マイクの距離が近すぎる可能性があります。お互いの位置を離して設置し、再測定してください。
W - 43 アクティブサブウーファーの距離と位置が測定できませんでした。ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。
NO WARN 警告情報はありません。

手順 2 に戻るには「3：測定結果を確認／保存する」

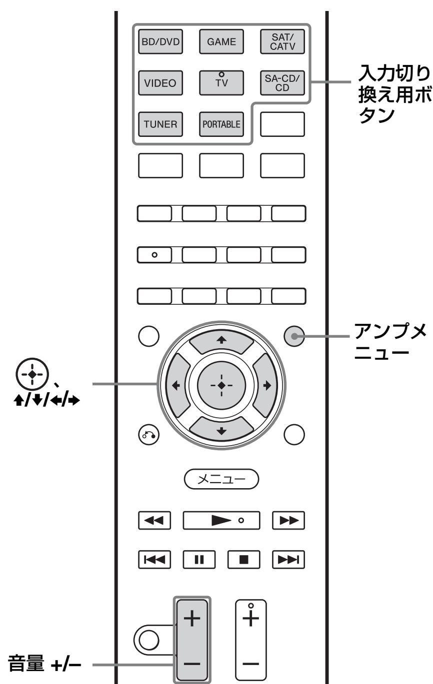
⊕を押します。

ちょっと一言

アクティブサブウーファーの位置によって測定結果が異なる場合があります。測定結果の値のまま使って問題ありません。

スピーカーレベルを調整する
（テストトーン）

視聴位置からテストトーンを聞きながら、スピーカーのレベルを調節できます。



1 アンプメニューを押す。

2 ↑/↓ をくり返し押して、「LEVEL」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して、「T. TONE」を選び、⊕を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して、「AUTO ■■■*」を選ぶ。

テストトーンが各スピーカーから順番に出力されます。

* ■■■ はスピーカーチャンネルを表します。

ご注意

スピーカーパターンの設定によっては、「AUTO ■■■」を選択しても、テストトーンがすべてのスピーカーから出力されるとは限りません。

5 スピーカーレベルを調整する。

LEVEL メニュー（53 ページ）で、各スピーカーの音声テストトーンのレベルが同じになるよう調整します。

ちょっと一言

- 全てのスピーカーのレベルを同時に調整するには、音量 +/– を押してください。本機の MASTER VOLUME つまみでも調整できます。
- 調整中は、表示窓に調整した値が表示されます。

6 テストトーンを終了する。

入力切り換え用ボタンのいずれかを押す、または手順 4 で「OFF」を選択します。

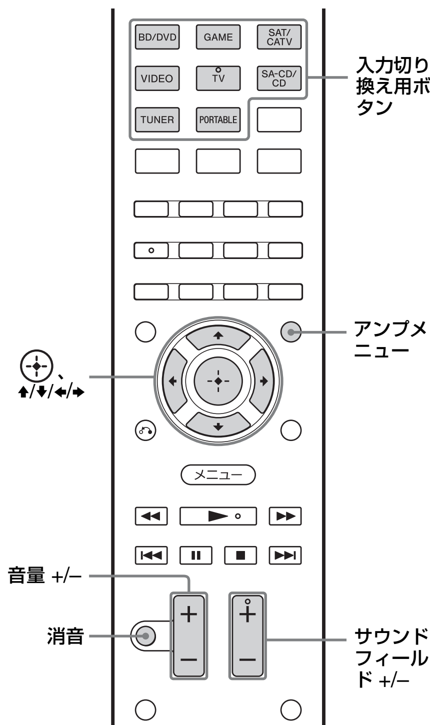
スピーカーからテストトーンが出力されない場合

- スピーカーコードが確実につながれていない可能性があります。
- スピーカーコードがショートしている恐れがあります。

表示窓に表示されているスピーカーと異なるスピーカーからテストトーンが出力される場合

スピーカーパターンの設定が間違っています。スピーカーの接続とスピーカーパターンが正確に一致していることを確かめてください。

再生



1 本機につないだ機器の電源を入れる。

2 本機の電源を入れる。

3 再生したい接続機器に対応した入力切り換え用ボタンを押す。

本体の INPUT SELECTOR つまみでも操作できます。
選択した入力が表示窓に表示されます。

ご注意
TUNER を押すと、表示窓に「FM TUNER」または「AM TUNER」がしばらくの間表示されたあと、周波数が表示されます。

4 ソースを再生する。

5 音量 +/– を押して、音量を調節する。

本体の MASTER VOLUME つまみでも操作できます。

6 サラウンド音声を楽しむ場合は、サウンドフィールド +/– を押す。

本体の 2CH/A.DIRECT、A.F.D.、MOVIE/HD-D.C.S.、または MUSIC でも操作できます。
詳しくは、40 ページをご覧ください。

音を一時的に消すには

リモコンの消音を押します。
以下の操作を行うと、消音機能が解除されます。
- 消音をもう一度押す。
- 音量を上げる。
- 本機の電源を切る。
- 自動音場補正を実行する。

スピーカーの破損を防ぐために

本機の電源を切る前に音量を下げておいてください。

入力に名前を付ける

各入力（TUNER を除く）に対し最大 8 文字の名前を入力し、表示窓に表示させることができます。
端子ではなく、接続機器名が表示されるように登録しておくと便利です。

1 名前を付けたい入力に対応する入力切り換え用ボタンを押す。

本体の INPUT SELECTOR つまみでも操作できます。

2 アンプメニューを押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して、「SYSTEM」を選び、⊕または → を押す。

つづく

4 **↑/↓ をくり返し押して、「NAME IN」を選び、⊕または → を押す。**

カーソルが点滅したら、文字を入力できます。

5 **↑/↓ を押して文字を選択したら、←/→ を押して入力位置を前後に移動する。**

ちょっと一言

- ↑/↓ を押して以下の文字タイプを選ぶことができます。
  アルファベット（大文字）→ 数字 → 記号
- 空白スペースを入力するには、文字を選ばずに → を押してください。

入力を誤った場合は

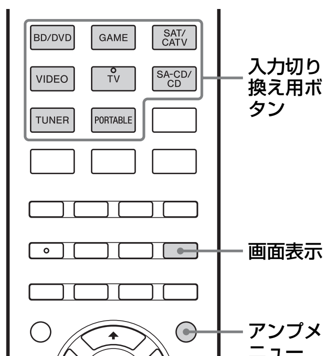
変更したい文字が点滅するまで ←/→ を押し、↑/↓ を押して正しい文字を選択します。

6 **⊕を押す。**

入力した名前が登録されます。

表示窓で情報を確認する

表示を切り換えて、サウンドフィールドなど本機の設定内容を確認できます。



1 **情報を確認したい入力に対応する入力切り換え用ボタンを押す。**

2 **アンプメニューを押したあと、画面表示をくり返し押す。**

ボタンを押すたびに表示が次のように切り換わります。

入力のインデックス名 * → 選択した入力 → 現在適用されているサウンドフィールド → 音量 → ストリーム情報 **

FM および AM ラジオを視聴する場合

プリセットされた放送局名 * → 周波数 → 現在適用されているサウンドフィールド → 音量

* インデックス名は、入力またはプリセットされた放送局に名前を付けた場合のみ表示されます（35、40 ページ）。空白スペースのみが入力された場合、またはインデックス名が入力名と同じ場合は、インデックス名は表示されません。

** ストリーム情報は表示されない場合があります。

ご注意

言語によっては、文字やマークが表示されないことがあります。

本機を使って録音／録画する

本機を使ってオーディオ／映像機器から録音／録画ができます。お持ちの録音／録画機器の取扱説明書も参照してください。

1 再生ソースを準備する。

入力切り換え用ボタンを押してソースを選びます。
例：SAT/CATV を押す。
本体の INPUT SELECTOR つまみでも操作できます。

2 録音／録画機器を準備する。

（VIDEO OUT 端子につないだ）録音／録画機器に録音／録画用のビデオテープなどを入れる。

3 録音／録画機器で録音／録画を開始し、再生機器側で再生する。

ご注意

- HDMI IN、COMPONENT VIDEO IN および DIGITAL IN 端子から入力された音声および映像入力信号は録音／録画できません。
- コンポジット映像信号のみを録画中は、本機のオートスタンバイ機能が働き、録画が中断されることがあります。この場合は、「AUTO.STBY」を「STBY OFF」に設定してください (61 ページ)。

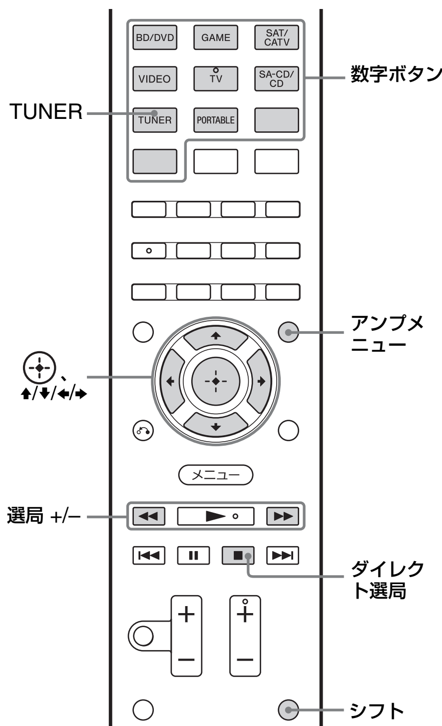
チューナーの操作

FM/AM ラジオを聞く

内蔵チューナーを通して FM および AM 放送を聞くことができます。事前に必ず、FM および AM アンテナを本機につないでください (27 ページ)。

ちょっと一言

ダイレクト選局の周波数のスケールは以下のとおりです。
- FM 周波数帯：100 kHz
- AM 周波数帯：9 kHz



自動で受信する（自動受信）

1 TUNER をくり返し押して、FM または AM を選ぶ。

2 選局 + または選局 – を押す。

選局 + を押すと、低い周波数から高い周波数へと放送局をスキャンします。選局 – を押すと、高い周波数から低い周波数へと放送局をスキャンします。
放送局を受信するとスキャンを自動的に停止します。

本体のコントロールボタンで操作する

1 INPUT SELECTOR つまみを回して、FM または AM を選ぶ。

2 TUNING MODE をくり返し押して、「AUTO」を選ぶ。

3 TUNING + または TUNING – を押す。

FM ステレオ放送の受信状態がよくない場合

FM ステレオ放送の受信状態が良くないときや、表示窓の「ST」が点滅しているときは、モノラル受信を選んで、音の歪みを低減します。

1 アンプメニューを押す。

2 ↑/↓ をくり返し押して、「TUNER」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して、「FM MODE」を選び、⊕または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して、「MONO」を選び、⊕を押す。

ステレオモードに戻すには、手順 1 から 4 をくり返し、手順 4 で「STEREO」を選びます。

手動で受信する（ダイレクト選局）

数字ボタンで放送局の周波数を直接入力することができます。

1 TUNER をくり返し押して、FM または AM を選ぶ。

本体の INPUT SELECTOR つまみでも操作できます。

2 ダイレクト選局を押す。

3 シフトを押しながら、数字ボタンを押して周波数を入力する。

例 1：FM 88.00 MHz
8 → 8 → 0 と選ぶ。
例 2：AM 1,350 kHz
1 → 3 → 5 → 0 と選ぶ

ちょっと一言
AM 放送を受信するときは、付属の AM ループアンテナの向きを受信状態の良い方向に調節してください。

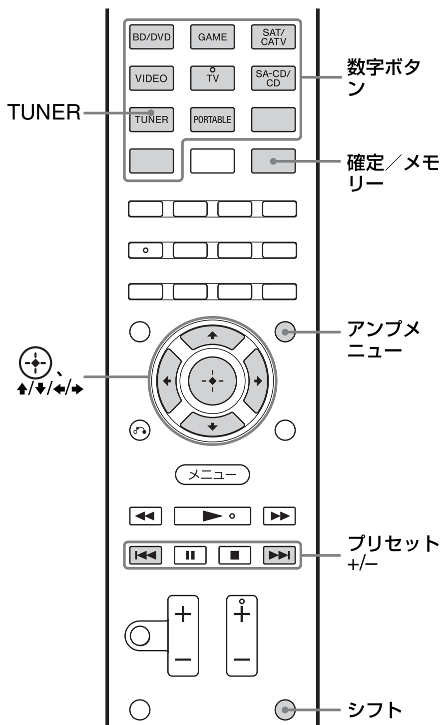
4 ⊕を押す。

放送局を受信できない場合

正しい周波数が入力されていることを確認してください。手順 2 ～ 4 をやり直してください。それでも放送局を受信できない場合、その地域では入力した周波数が使われていない可能性があります。

FM/AM ラジオ放送局をプリセットする

お好きな放送局をプリセット放送局として、FM 局と AM 局でそれぞれ最大 30 局登録できます。



1 TUNER をくり返し押して、FM または AM を選ぶ。

本体の INPUT SELECTOR つまみでも操作できます。

2 プリセットしたい放送局を自動受信 (38 ページ) またはダイレクト選局 (38 ページ) で受信する。

3 シフトを押しながら、確定／メモリーを押す。

本体の MEMORY/ENTER でも操作できます。

4 シフトを押しながら、数字ボタンを押してプリセット番号を選ぶ。

プリセット + またはプリセット – を押して、プリセット番号を選ぶこともできます。

5 ⊕を押す。

選んだプリセット番号で放送局が登録されます。

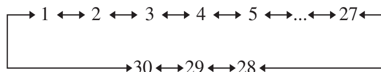
6 手順 1 から 5 をくり返して、他の放送局を登録する。

プリセットした放送局を受信する

1 TUNER をくり返し押して、FM または AM を選ぶ。

2 プリセット + またはプリセット – をくり返し押して、放送局を選ぶ。

ボタンを押すたびに、プリセットした放送局が次のように切り換わります。



シフトを押しながら数字ボタンを押して、プリセットした放送局を入力します。選択した放送局を受信するには、⊕を押します。

本体のコントロールボタンで操作する

1 INPUT SELECTOR つまみを回して、FM または AM を選ぶ。
2 TUNING MODE をくり返し押して、「PRESET」を選ぶ。
3 TUNING + または TUNING – を押して、プリセットした放送局の中から聞きたい放送局を選ぶ。

プリセットした放送局に名前を付ける

1 TUNER をくり返し押して、FM または AM を選ぶ。

本体の INPUT SELECTOR つまみでも操作できます。

2 インデックス名を作成したい放送局を受信する（39 ページ）。

3 アンプメニューを押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して、「TUNER」を選び、⊕または → を押す。

5 ↑/↓ をくり返し押して、「NAME IN」を選び、⊕または → を押す。

カーソルが点滅したら、文字を入力できます。

6 ↑/↓ を押して文字を選択したら、←/→ を押して入力位置を前後に移動する。

放送局には、最大 8 文字の名前を入力することができます。

ちょっと一言

- ↑/↓ を押して以下の文字タイプを選ぶことができます。
  アルファベット（大文字）→ 数字 → 記号
- 空白スペースを入力するには、文字を選ばずに → を押してください。

入力を誤った場合は

変更したい文字が点滅するまで ←/→ を押し、↑/↓ を押して正しい文字を選択します。

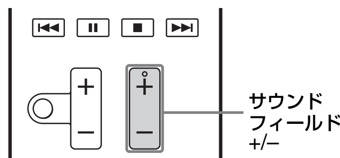
7 ⊕を押す。

入力した名前が登録されます。

サラウンド音声を楽しむ

サウンドフィールドを選ぶ

本機は、マルチチャンネルのサラウンド音声を作り出すことができます。本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドから最適なサウンドフィールドを選ぶことができます。



サウンドフィールド +/– をくり返し押してお好みのサウンドフィールドを選ぶ。

本体の 2CH/A.DIRECT、A.F.D.、MOVIE/HD-D.C.S. または MUSIC でも操作できます。

2 チャンネルサウンドモード

お使いのソフトの記録フォーマットやつないだ再生機器、本機のサウンドフィールドの設定などに関係なく、2 チャンネル音声出力に切り換えられます。

■ 2CH ST. (2 Channel Stereo)

フロント左／右の 2 本のスピーカーのみから音を出します。アクティブサブウーファーからは音が出ません。
通常の 2 チャンネルステレオ音源はサウンドフィールド処理を完全に回避し、LFE 信号以外のマルチチャンネルサラウンドフォーマットは 2 チャンネルにダウンミックスされます。

■ A. DIRECT (Analog Direct)

選んでいる入力の音声を、2 チャンネルのアナログ入力に切り換えます。一切調整を行わずに高品質のアナログ音源を楽しむことができます。
この機能を使っているときは、音量とフロントスピーカーのレベルのみ調節できます。

ご注意

入力に BD/DVD および GAME を選んでいるときは、「A. DIRECT」は選べません。

Auto Format Direct (A.F.D.) モード

Auto Format Direct (A.F.D.)（オートフォーマットダイレクト）モードを使って、ハイファイ音楽を聞いたり、2 チャンネルステレオ音声をマルチチャンネルで聞くためのデコードモードを選んだりすることができます。

■ A.F.D. AUTO (A.F.D. Auto)

サラウンド効果なしで録音またはエンコードされたままの音声として処理します。

■ MULTI ST. (Multi Stereo)

2 チャンネルの左／右信号をすべてのスピーカーから出力します。ただし、スピーカーの設定によっては、一部のスピーカーから音が出力されないことがあります。

ムービーモード

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドを選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。ご自宅で、映画館の臨場感を再現できます。

■ HD-D.C.S. (HD Digital Cinema Sound)

HD-D.C.S. モードは、ソニーが最新の音響およびデジタル信号処理技術を用いて新たに開発した劇場音響再現技術です。この技術は、マスタリングスタジオの緻密な計測データに基づいています。
HD-D.C.S. モードにより、マスタリング処理時に映画の音響技師が意図したとおりの最適な臨場感とともに、高音質なブルーレイや DVD の映画をご自宅で楽しむことができます。
HD-D.C.S. のエフェクトタイプを選ぶこともできます（58 ページ）。

■ PLII MV (Pro Logic II Movie)

Dolby Pro Logic II Movie モードのデコード処理を行います。この設定は、Dolby Surround にエンコードされた映画に適しています。また、このモードでは、吹き替え版や古い映画のビデオなどの音声も 5.1 チャンネルで再生できます。

■ PLIIX MV (Pro Logic IIx Movie)

Dolby Pro Logic IIx Movie モードのデコード処理を行います。この設定は、Dolby Pro Logic II Movie またはドルビーデジタル 5.1 を 7.1 チャンネルに拡張し ます。

■ PLIIZ (Pro Logic IIz)

Dolby Pro Logic IIz モードのデコード処理を行います。この設定は、5.1 チャンネルの音源に垂直方向の成分を加えた 7.1 チャンネルに拡張し、立体感と奥行きを表現できます。

■ NEO6 CIN (Neo:6 Cinema)

DTS Neo:6 Cinema モードのデコード処理を行います。2 チャンネルのフォーマットで録音された音源を 7 チャンネルにデコードします。

ミュージックモード

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドを選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。ご自宅で、コンサートホールの臨場感を再現できます。

■ HALL (Hall)

クラシックのコンサートホールの音響を再現します。

■ JAZZ (Jazz Club)

ジャズクラブの音響を再現します。

■ CONCERT (Concert)

300 席あるライブハウスの音響を再現します。

■ STADIUM (Stadium)

屋外のスタジアムの雰囲気を再現します。

■ SPORTS (Sports)

スポーツ中継放送の雰囲気を再現します。

■ P. AUDIO (Portable Audio Enhancer)

ポータブルオーディオ機器から、よりクリアな音像を再現します。MP3 やその他の圧縮された音源に適しています。

■ PLII MS (Pro Logic II Music)

Dolby Pro Logic II Music モードのデコード処理を行います。CD など通常のステレオ音源に適しています。

■ PLIIX MS (Pro Logic IIx Music)

Dolby Pro Logic IIx Music モードのデコード処理を行います。CD など通常のステレオ音源に適しています。

■ PLIIZ (Pro Logic IIz)

Dolby Pro Logic IIz モードのデコード処理を行います。この設定は、5.1 チャンネルの音源に垂直方向の成分を加えた 7.1 チャンネルに拡張し、立体感と奥行きを表現できます。

■ NEO6 MUS (Neo:6 Music)

DTS Neo:6 Music モードのデコード処理を行います。2 チャンネルのフォーマットで録音された音源を 7 チャンネルにデコードします。CD など通常のステレオ音源に適しています。

ヘッドホンをつないでいる場合には

以下のサウンドフィールドは、本機にヘッドホンをつないでいるときのみ選択できます。

■ HP 2CH (Headphones 2CH)

ヘッドホンを使用すると自動的に選ばれます（Analog Direct を除く）。通常の 2 チャンネルステレオ音源はサウンドフィールド処理を完全に回避し、LFE 信号以外のマルチチャンネルサラウンドフォーマットは 2 チャンネルにダウンミックスされます。

■ HP DIR (Headphones Direct)

「A. DIRECT」が選ばれているときにヘッドホンを使用すると、自動的に選ばれます。
イコライザー、サウンドフィールドなどの処理を行わずに、アナログ信号を出力します。

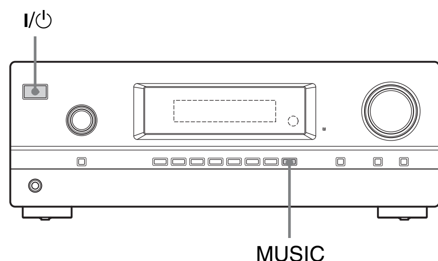
アクティブサブウーファーをつないでいる場合
アクティブサブウーファーから2チャンネル信号に出力される低域効果音であるLFE信号がないときは、本機がアクティブサブウーファー出力用の低周波信号を生成します。ただし、すべてのスピーカーが「LARGE」に設定されているときは、「NEO6 CIN」または「NEO6 MUS」では低周波信号が生成されません。ドルビーデジタルの低音リダイレクト回路を最大限に活かすため、アクティブサブウーファーのカットオフ周波数をできるだけ高域に設定することをおすすめします。

サウンドフィールドについてのご注意
- スピーカーパターンの設定によっては、使用できないサウンドフィールドがあります。
- 音楽用と映画用のサウンドフィールドは、以下の場合は機能しません。
  – サンプリング周波数が48 kHz以上のDTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution AudioまたはDolby TrueHD信号を受信している。
  –「A. DIRECT」が選ばれている。
- スピーカーパターンが2/0または2/0.1に設定されているときは、「PLII MV」、「PLIIX MV」、「PLII MS」、「PLIIX MS」、「PLIIZ」、「NEO6 CIN」および「NEO6 MUS」は機能しません。
- 「PLIIX」と「PLIIZ」を同時に選ぶことはできません。
  –「PLIIX」は、スピーカーパターンをサラウンドバックスピーカーありの設定にした場合のみ使用可能です。
  –「PLIIZ」は、スピーカーパターンをフロントハイスピーカーありの設定にした場合のみ使用可能です。
- 音楽用のサウンドフィールドのどれかを選んでいるときは、SPEAKERメニューですべてのスピーカーが「LARGE」に設定されていると、アクティブサブウーファーから音が出ません。
  ただし、以下の場合には、アクティブサブウーファーから音が出ます。
  – デジタル入力信号にLFE信号が含まれている。
  – フロントまたはサラウンドスピーカーが「SMALL」に設定されている。
  –「MULTI ST.」、「PLII MV」、「PLII MS」、「PLIIX MV」、「PLIIX MS」、「HD-D.C.S.」または「P. AUDIO」が選択されている。

音楽用／映画用サラウンド効果をオフにするには
サウンドフィールド +/– をくり返し押して、「2CH ST.」または「A.F.D. AUTO」を選びます。
本機の2CH/A.DIRECTをくり返し押すかまたはA.F.D.を押して、「2CH ST.」または「A.F.D. AUTO」をそれぞれ選ぶこともできます。

サウンドフィールドを初期設定状態に戻す

この操作は必ず本体のボタンを使って行ってください。



1 **I/⏻ を押して本機の電源を切る。**

2 **MUSIC を押しながら、I/⏻ を押す。**

表示窓に「S.F. CLEAR」と表示され、すべてのサウンドフィールドが初期設定状態に戻ります。

"ブラビアリンク" 機能

"ブラビアリンク" 機能とは？

"ブラビアリンク" 機能により、HDMI 機器制御機能を搭載する、テレビ、ブルーレイディスクプレーヤー／レコーダー、DVD プレーヤー、AV アンプなどのソニー製品を連動操作することができます。
"ブラビアリンク" 機能に対応するソニー製の機器を HDMI ケーブル（別売）でつなぐと、以下の操作を簡単に行うことができます。

- ワンタッチプレイ（46 ページ）
- システムオーディオコントロール（46 ページ）
- オートジャンルセレクター（47 ページ）
- 電源オフ連動（48 ページ）
- シーンセレクト（49 ページ）

HDMI 機器制御機能は、HDMI CEC (Consumer Electronics Control) で使用されている、HDMI (High-Definition Multimedia Interface) のための相互制御機能の規格です。

本機は "ブラビアリンク" 機能に対応している製品とつなぐことをおすすめします。

ご注意

接続機器によっては、HDMI 機器制御機能が働かない場合があります。お使いの機器の取扱説明書を参照してください。

“ブラビアリンク”機能の準備をする

本機は、「HDMI 機器制御機能かんたん設定」に対応しています。

- お持ちのテレビが、「HDMI 機器制御機能かんたん設定」機能に対応している場合は、テレビの HDMI 機器制御機能を設定すると、本機と再生機器の HDMI 機器制御機能も自動的に設定されます（45 ページ）。
- お持ちのテレビが、「HDMI 機器制御機能かんたん設定」機能に対応していない場合は、本機、再生機器、およびテレビの HDMI 機器制御機能を別々に設定してください（45 ページ）。

お持ちのテレビが「HDMI 機器制御機能かんたん設定」に対応している場合

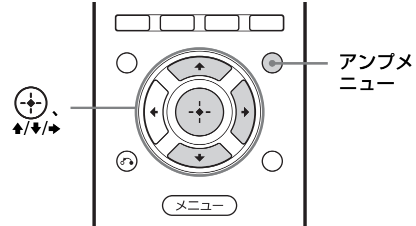
1 本機、テレビおよび再生機器を HDMI ケーブルで接続する。
（各機器は、HDMI 機器制御機能に対応している必要があります。）

2 本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。

3 テレビのHDMI機器制御機能を有効にする。
本機およびすべての接続機器の HDMI 機器制御機能が同時に有効になります。設定が終わるとまたはに「COMPLETE」と表示されます。

テレビの設定について詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

お持ちのテレビが「HDMI 機器制御機能かんたん設定」に対応していない場合



1 アンプメニューを押す。

2 ↑/↓ をくり返し押して、「HDMI」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して、「CTRL.HDMI」を選び、⊕または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して、「CTRL ON」を選び、⊕を押す。
HDMI 機器制御機能が有効になります。

5 つないだ機器の HDMI 機器制御機能をオンに設定にする。
HDMI 機器制御機能がすでにオンに設定されている場合は、設定を変更する必要はありません。
テレビとつないだ機器の設定について詳しくは、各機器の取扱説明書を参照してください。

ご注意

- お持ちのテレビで「HDMI 機器制御機能かんたん設定」を行う前に、必ずテレビと本機を含む他の接続機器の電源を入れてください。
- 「HDMI 機器制御機能かんたん設定」の設定を行った後に再生機器が動作しない場合は、テレビの HDMI 機器制御の設定を確認してください。
- 接続機器が、「HDMI 機器制御機能かんたん設定」に対応していない場合でも、その機器が HDMI 機器制御機能に対応している場合は、テレビから「HDMI 機器制御機能かんたん設定」を行う前に、接続機器の HDMI 機器制御機能を設定する必要があります。

ワンタッチ操作で機器を再生する
（ワンタッチプレイ）

つないだ機器で再生を始めると、本機とテレビは下記のように動作します。

本機とテレビ

電源が入る（スタンバイ状態の場合）



適切な HDMI 入力に切り換わる

「PASS.THRU」を「AUTO」または「ON」に設定すると、本機はスタンバイ状態のままで、音声と映像をテレビからのみ出力することができます。

ご注意

- テレビによっては、コンテンツの最初の部分が表示されないことがあります。
- 設定によっては、「PASS.THRU」が「AUTO」または「ON」に設定されていると、本機の電源が入らないことがあります。
- テレビのメニューを使って、システムオーディオコントロール機能がオンに設定されていることを確かめてください。

ちょっと一言

テレビのメニューから、ブルーレイディスクプレーヤー／レコーダーまたは DVD プレーヤーなどの接続機器を選ぶこともできます。本機とテレビは自動的に適切な HDMI 入力に切り換わります。

テレビの音声を本機のスピーカーで楽しむ
（システムオーディオコントロール）

簡単な操作で、テレビの音声を本機につないだスピーカーから楽しむことができます。
システムオーディオコントロール機能は、テレビのメニューで操作できます。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

テレビ

システムオーディオコントロール機能を有効にする

→

本機

- 電源が入る（スタンバイ状態の場合）
- 適切な HDMI 入力に切り換わる

↓

テレビの音量が最小になる

テレビの音声が出力される

システムオーディオコントロール機能は以下のようにお使いいただけます。

- テレビの電源が入った状態で、本機の電源を入れると、システムオーディオコントロール機能が自動的に有効になり、本機につないだスピーカーからテレビの音声が出力されます。本機の電源を切ると、音声はテレビのスピーカーから出力されます。
- テレビの音量を調節すると、システムオーディオコントロール機能により、本機の音量も同時に調節されます。

ご注意

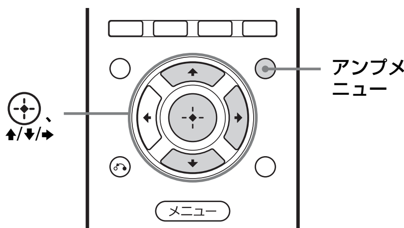
- テレビの設定によっては、システムオーディオコントロール機能が働かないことがあります。この場合は、テレビの取扱説明書を参照してください。
- 「CTRL.HDMI」が「CTRL ON」に設定されていると、システムオーディオコントロールの設定に応じて HDMI メニューの「AUDIO.OUT」は自動的に設定されます。

- テレビの電源を入れてから本機の電源を入れると、テレビの音声が出力されるまでに多少時間がかかることがあります。

デジタル放送のジャンルに応じて、サラウンド効果を自動的に切り換える

（オートジャンルセレクター）

視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます（オートジャンルセレクター対応のテレビをお使いの場合のみ）。
オートジャンルセレクターは、システムオーディオコントロール機能がオンに設定されている場合のみ使用することができます。



1 アンプメニューを押す。

2 ↑/↓ をくり返し押して、「HDMI」を選び、⊕ または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して、「S. FIELD」を選び、⊕ または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して、お好みの設定を選ぶ。

- AUTO：デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じて、サウンドフィールドが自動的に切り換わります。
- MANUAL：サウンドフィールドボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

番組情報対応表

番組情報（EPG 情報）	オートジャンルセレクターで切り換わるサウンドフィールド
ニュース／報道	2CH ST.
スポーツ	SPORTS
情報／ワイドショー	A.F.D. AUTO
ドラマ	A.F.D. AUTO
音楽	詳細ジャンルによって異なります。下記の音楽番組詳細ジャンル対応表をご覧ください。
バラエティ	A.F.D. AUTO
映画	HD-D.C.S.
アニメ／特撮	A.F.D. AUTO
ドキュメンタリー	A.F.D. AUTO
劇場／公演	CONCERT
趣味／教育	A.F.D. AUTO
福祉	A.F.D. AUTO
その他	A.F.D. AUTO
スポーツ（CS）	SPORTS
洋画（CS）	HD-D.C.S.
邦画（CS）	HD-D.C.S.
情報なし	A.F.D. AUTO

つづく

音楽番組詳細ジャンル対応表

詳細ジャンル	サウンドフィールド
国内ロック／ポップス	CONCERT
海外ロック／ポップス	CONCERT
クラシック／オペラ	HALL
ジャズ／フュージョン	JAZZ
歌謡曲／演歌	CONCERT
ライブ／コンサート	CONCERT
ランキング／リクエスト	CONCERT
カラオケ／のど自慢	CONCERT
民謡／邦楽	CONCERT
童謡／キッズ	CONCERT
民族音楽／ワールドミュージック	CONCERT
その他	CONCERT

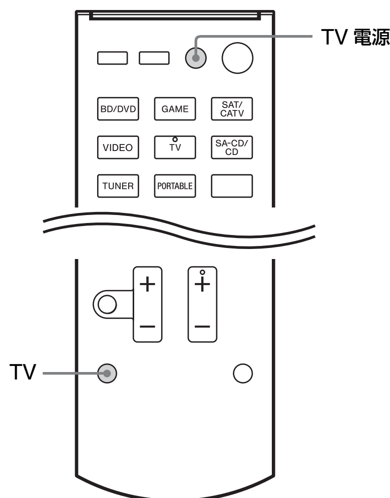
ご注意

番組情報（EPG 情報）に応じてサウンドフィールドが切り換わるとき、音が途切れることがあります。

テレビで本機の電源を切る

（電源オフ連動）

テレビのリモコンの POWER ボタンで、テレビの電源を切ると、本機と接続機器の電源も自動的に切れます。
本機のリモコンでもテレビの電源を切ることができます。



TV を押しながら、TV 電源を押す。

テレビ、本機、および HDMI でつないだ機器の電源が切れます。

ご注意

- テレビの電源連動機能の設定をオンにしてから、電源オフ連動機能を使用してください。詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。
- 機器の状態によっては、電源オフ連動機能で接続機器の電源が切れない場合があります。詳しくは、各接続機器の取扱説明書を参照してください。

選んだシーンに応じて最適なサウンドフィールドを楽しむ
（シーンセレクト）

テレビで選んだシーンに応じて最適な画質とサウンドフィールドに切り換えることができます。操作について詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

対応表

テレビのシーン設定	サウンドフィールド
Cinema	HD-D.C.S.
Sports	SPORTS
Music	CONCERT
Animation	A.F.D. AUTO
Photo	A.F.D. AUTO
Game	A.F.D. AUTO
Graphics	A.F.D. AUTO

ご注意
テレビによっては、サウンドフィールドが切り換わらないことがあります。

その他の操作

デジタル音声とアナログ音声を切り換える
（インプットモード）

機器を本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、視聴するソフトの種類によって、音声入力をどちらかに固定したり、切り換えたりすることができます。

1 入力切り換え用ボタンで入力源を選ぶ。

本体の INPUT SELECTOR つまみでも操作できます。

2 インプットモードをくり返し押す。

選択した音声入力が表示窓に表示されます。

- AUTO：機器を本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、デジタル音声入力が優先されます。
  複数のデジタル接続をしている場合は、HDMI につないでいる音声信号が優先されます。
  デジタル音声信号がない場合は、アナログ音声信号が選ばれます。
  テレビの入力が選ばれているときは、オーディオリターンチャンネル（ARC）信号が優先されます。
  お持ちのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応していない場合は、光デジタル音声信号が選ばれます。
- COAX：デジタル音声信号入力を DIGITAL COAXIAL 端子に指定します。
- OPT：デジタル音声信号入力を DIGITAL OPTICAL 端子に指定します。

つづく

• ANALOG：アナログ音声信号入力を AUDIO IN (L/R) 端子に指定します。

ご注意
- 入力によっては、設定できない音声入力モードがあります。
- 「A. DIRECT」を使っているときは、音声入力は「ANALOG」に設定されます。他のモードは選べません。
- オーディオリターンチャンネル（ARC）機能は以下の場合、働きません。
  – お持ちのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応していない。
  – 「CTRL.HDMI」が「CTRL OFF」に設定されている。
  – 本機を、ARC に対応しているテレビの HDMI 端子に HDMI ケーブルでつないでいないとき。

他の映像／音声入力端子を使う

端子の初期設定がつないでいる機器と対応していない場合は、HDMI、COMPONENT VIDEO および DIGITAL 入力端子の割り当てを他の入力に変更することができます。
入力端子の割り当てを変更した後は、入力切り換え用ボタン（または本体の INPUT SELECTOR つまみ）でつないでいる機器を選ぶことができます。
例：
DVD プレーヤーを OPTICAL SAT/CATV IN および COMPONENT VIDEO SAT/CATV (IN 2) 端子につないでいるときは
– OPTICAL SAT/CATV IN 端子を「BD/DVD」に割り当てる。
– COMPONENT VIDEO SAT/CATV (IN 2) 端子を「BD/DVD」に割り当てる。

ご注意
HDMI 入力端子の割り当てを変更する前に、必ず「CTRL.HDMI」を「CTRL OFF」に設定してください。

1 アンプメニューを押す。

2 ↑/↓ をくり返し押して、「AUDIO」、「VIDEO」または「HDMI」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して、「A. ASSIGN」、「V. ASSIGN」または「H. ASSIGN」を選び、⊕または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して、以下の設定を選び、⊕または → を押す。
「A. ASSIGN」および「V. ASSIGN」の場合、割り当てたい入力名を選ぶ。
「H. ASSIGN」の場合、割り当てたい入力端子を選ぶ。

5 ↑/↓ をくり返し押して、以下の設定を選び、⊕を押す。
「A. ASSIGN」および「V. ASSIGN」の場合、割り当てたい入力端子を選ぶ。
「H. ASSIGN」の場合、割り当てたい入力名を選ぶ。

前の表示に戻るには
← または戻る ↶ を押します。

入力端子を割り当てる

割り当て可能な入力端子		入力名						
		BD/DVD	GAME	SAT (SAT/CATV)	VIDEO	SA-CD (SA-CD/CD)	PORT (PORTA-BLE)	NONE
HDMI	HDMI 1	○*	○	○	○	○	○	○
	HDMI 2	○	○*	○	○	○	○	○
	HDMI 3	○	○	○*	○	○	○	○
	HDMI 4	○	○	○	○*	○	○	○
映像	CMPNT 1 (Component 1)	○*	○	○	○	○	○	–
	CMPNT 2 (Component 2)	○	○	○*	○	○	○	–
	COMP (Composite)	–	–	○	○*	–	–	–
	NONE	○	○*	–	–	○*	○*	–
音声	SAT OPT	○	○	○*	○	○	○	–
	BD COAX	○*	○	○	○	○	○	–
	ANALOG	–	–	○	○*	○*	○*	–
	NONE	○	○*	–	–	–	–	–

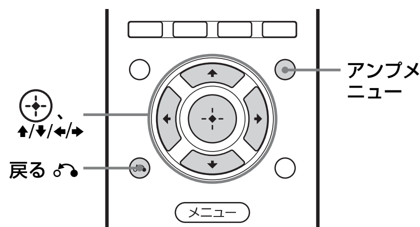
* 初期設定

ご注意

- HDMI または DIGITAL 音声入力端子の割り当てを変更すると、インプットモードの設定が自動的に変わることがあります（49 ページ）。
- 1 つの入力に対して複数の入力を割り当てることはできません。

設定メニューの使いかた

設定メニューを使って、さまざまな設定を行うことにより本機をカスタマイズすることができます。



1 アンプメニューを押す。

2 ↑/↓ をくり返し押して、お好みのメニュー項目を選び、⊕ または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して、調整したいパラメーターを選び、⊕ または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して、お好みの設定を選び、⊕ を押す。

前の表示に戻るには

← または戻る を押します。

メニューを消すには

アンプメニューを押します。

ご注意

パラメーターや設定が表示窓で暗く表示されることがあります。これは、選んだ項目が使用できない、あるいは固定／変更できないことを意味します。

設定メニュー一覧

各メニューでは、以下のオプションを設定できます。詳しくは、括弧内の参照ページをご覧ください。

メニュー [表示]	パラメーター [表示]	設定	初期設定
AUTO CAL [A. CAL] (57 ページ)	自動音場補正の開始 [START]		
	補正タイプ [a] [CAL TYPE]	FULL.FLAT、ENGINEER、FRONT.REF、OFF	ENGINEER
LEVEL [LEVEL] (57 ページ)	テストトーン [b] [T. TONE]	OFF、AUTO ■■■[c]	OFF
	フロントスピーカー（左）レベル [b] [FL LVL]	FL –10.0 dB ～ FL +10.0 dB（0.5 dB 単位）	FL 0 dB
	フロントスピーカー（右）レベル [b] [FR LVL]	FR –10.0 dB ～ FR +10.0 dB（0.5 dB 単位）	FR 0 dB
	センタースピーカーレベル [b] [CNT LVL]	CNT –10.0 dB ～ CNT +10.0 dB（0.5 dB 単位）	CNT 0 dB
	サラウンドスピーカー (左) レベル [b] [SL LVL]	SL –10.0 dB ～ SL +10.0 dB（0.5 dB 単位）	SL 0 dB
	サラウンドスピーカー (右) レベル [b] [SR LVL]	SR –10.0 dB ～ SR +10.0 dB（0.5 dB 単位）	SR 0 dB
	サラウンドバックスピーカーレベル [b] [SB LVL]	SB –10.0 dB ～ SB +10.0 dB（0.5 dB 単位）	SB 0 dB
	サラウンドバックスピーカー（左）レベル [b] [SBL LVL]	SBL –10.0 dB ～ SBL +10.0 dB（0.5 dB 単位）	SBL 0 dB
	サラウンドバックスピーカー（右）レベル [b] [SBR LVL]	SBR –10.0 dB ～ SBR +10.0 dB（0.5 dB 単位）	SBR 0 dB
	フロントハイスピーカー（左）レベル [b] [LH LVL]	LH –10.0 dB ～ LH +10.0 dB（0.5 dB 単位）	LH 0 dB
	フロントハイスピーカー（右）レベル [b] [RH LVL]	RH –10.0 dB ～ RH +10.0 dB（0.5 dB 単位）	RH 0 dB
	アクティブサブウーファーレベル [b] [SW LVL]	SW –10.0 dB ～ SW +10.0 dB（0.5 dB 単位）	SW 0 dB
	ダイナミックレンジの圧縮 [D. RANGE]	COMP. MAX、COMP. STD、COMP.AUTO、COMP. OFF	COMP.AUTO

つづく

メニュー [表示]	パラメーター [表示]	設定	初期設定
SPEAKER [SPKR] （57 ページ）	スピーカーパターン [PATTERN]	詳しくは、29 ページをご覧ください。	3/4.1
	フロントスピーカーサイズ [b] [FRT SIZE]	LARGE、SMALL	LARGE
	センタースピーカーサイズ [b] [CNT SIZE]	LARGE、SMALL	LARGE
	サラウンドスピーカーサイズ [b] [SUR SIZE]	LARGE、SMALL	LARGE
	フロントハイスピーカーサイズ [b] [FH SIZE]	LARGE、SMALL	LARGE
	フロントスピーカー（左）までの距離 [b] [FL DIST.]		
	フロントスピーカー（右）までの距離 [b] [FR DIST.]		
	センタースピーカーまでの距離 [b] [CNT DIST.]		
	サラウンドスピーカー（左）までの距離 [b] [SL DIST.]		
	サラウンドスピーカー（右）までの距離 [b] [SR DIST.]		
	サラウンドバックスピーカーまでの距離 [b] [SB DIST.]	1.00 m ～ 10.00 m（0.1 m 単位）[d] 3’ 3”～ 32’ 9”（1 inch 単位）	3.00 m 9’ 10”
	サラウンドバックスピーカー（左）までの距離 [b] [SBL DIST.]		
	サラウンドバックスピーカー（右）までの距離 [b] [SBR DIST.]		
	フロントハイスピーカー（左）までの距離 [b] [LH DIST.]		
	フロントハイスピーカー（右）までの距離 [b] [RH DIST.]		
	アクティブサブウーファーまでの距離 [b] [SW DIST.]		
	距離の単位 [DIST.UNIT]	METER、FEET	METER

メニュー [表示]	パラメーター [表示]	設定	初期設定
	フロントスピーカーのクロスオーバー周波数 e) [FRT CRS.]	CRS. 40 Hz ～ CRS. 200 Hz（10 Hz 単位）	CRS. 120 Hz
	センタースピーカーのクロスオーバー周波数 e) [CNT CRS.]	CRS. 40 Hz ～ CRS. 200 Hz（10 Hz 単位）	CRS. 120 Hz
	サラウンドスピーカーのクロスオーバー周波数 e) [SUR CRS.]	CRS. 40 Hz ～ CRS. 200 Hz（10 Hz 単位）	CRS. 120 Hz
	フロントハイスピーカーのクロスオーバー周波数 e) [FH CRS.]	CRS. 40 Hz ～ CRS. 200 Hz（10 Hz 単位）	CRS. 120 Hz
SURROUND [SURR] （58 ページ）	HD-D.C.S. エフェクトタイプ [EFFECT]	DYNAMIC、THEATER、STUDIO	THEATER
EQ [EQ] （59 ページ）	フロントスピーカーの低域レベル [BASS]	BASS –10 dB ～ BASS +10 dB（1 dB 単位）	BASS 0 dB
	フロントスピーカーの高域レベル [TREBLE]	TRE –10 dB ～ TRE +10 dB（1 dB 単位）	TRE 0 dB
TUNER [TUNER] （59 ページ）	FM 放送局の受信モード [FM MODE]	STEREO、MONO	STEREO
	プリセットした放送局に名前を付ける [NAME IN]	詳しくは、「プリセットした放送局に名前を付ける」（40 ページ）をご覧ください。	
AUDIO [AUDIO] （59 ページ）	音声と映像出力の同期 [A/V SYNC]	SYNC ON、SYNC OFF	SYNC OFF
	デジタル放送の言語選択 [DUAL]	MAIN/SUB、MAIN、SUB	MAIN
	デジタル音声入力の割り当て [A. ASSIGN]	詳しくは、「他の映像／音声入力端子を使う」（50 ページ）をご覧ください。	
	ナイトモード [NIGHT M.]	NIGHT. ON、NIGHT.OFF	NIGHT.OFF
VIDEO [VIDEO] （60 ページ）	映像入力の割り当て [V. ASSIGN]	詳しくは、「他の映像／音声入力端子を使う」（50 ページ）をご覧ください。	

つづく

メニュー [表示]	パラメーター [表示]	設定	初期設定
HDMI [HDMI] （60 ページ）	HDMI 機器制御機能 [CTRL.HDMI]	CTRL ON、CTRL OFF	CTRL ON
	HDMI シグナルパススルー [PASS.THRU]	ON、AUTO、OFF	OFF
	HDMI 音声入力の設定 [AUDIO.OUT]	AMP、TV+AMP	AMP
	HDMI サウンドフィールド [S. FIELD]	AUTO、MANUAL	MANUAL
	HDMI 入力の割り当て [H. ASSIGN]	詳しくは、「他の映像／音声入力端子を使う」（50 ページ）をご覧ください。	
SYSTEM [SYSTEM] （61 ページ）	オートスタンバイモード [AUTO.STBY]	STBY ON、STBY OFF	STBY ON
	入力に名前を付ける [NAME IN]	詳しくは、「入力に名前を付ける」（35 ページ）をご覧ください。	

a)自動音場補正を実行し、設定を保存した場合のみこの設定を選ぶことができます。
b)スピーカーパターンの設定によっては、使用できないパラメーターがあります。
c)■■■ には、スピーカーチャンネル（FL、FR、CNT、SL、SR、SB、SBL、SBR、LH、RH、SW）が表示されます。
d)自動音場補正を実行し、測定結果を保存した場合のみ、0.01 メートル単位で距離を調整することができます。
e)この設定はスピーカーが「LARGE」に設定されているときは選べません。

AUTO CAL メニュー

■ START

自動音場補正を実行できます（31 ページ）。

■ CAL TYPE

お好みに合わせて補正タイプを選ぶことができます。詳しくは、「3：測定結果を確認／保存する」の手順 4 をご覧ください（32 ページ）。

LEVEL メニュー

各スピーカーのレベルを手動で調整できます。

■ T. TONE

視聴位置からテストトーンを聞きながら、スピーカーのレベルを調節できます（34 ページ）。

■ FL LVL、FR LVL、CNT LVL、SL LVL、SR LVL、SB LVL、SBL LVL、SBR LVL、LH LVL、RH LVL、SW LVL

各スピーカー（フロント右／左、センター、サラウンド右／左、サラウンドバック右／左、フロントハイ右／左、アクティブサブウーファー）のレベルを調整できます。

ご注意

スピーカーパターンの設定によっては、使用できないパラメーターがあります。

■ D. RANGE

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。ダイナミックレンジの圧縮はドルビーデジタルの音源にのみ働きます。

- COMP. MAX
  ダイナミックレンジを大幅に圧縮します。
- COMP. STD
  ダイナミックレンジはレコーディングエンジニアが意図したとおりに圧縮されます。
- COMP.AUTO
  ダイナミックレンジが自動的に圧縮されます。
- COMP. OFF
  ダイナミックレンジの圧縮は行われません。

ちょっと一言

「COMP. STD」が標準の設定ですが、圧縮率は低いため、「COMP. MAX」の使用をおすすめします。これは、ダイナミックレンジを大幅に圧縮しますので、深夜でも小音量で映画を鑑賞することができます。アナログのリミッターとは異なり、レベルがあらかじめ決められているため、自然な圧縮になります。

SPEAKER メニュー

本機に接続しているスピーカーのサイズと距離を調整できます。

■ PATTERN

お使いのスピーカーシステムに合わせたスピーカーパターンを選ぶことができます（29 ページ）。

■ FRT SIZE、CNT SIZE、SUR SIZE、FH SIZE

各スピーカーのサイズ（フロント右／左、センター、サラウンド右／左、サラウンドバック右／左、フロントハイ右／左）のサイズを調整できます。

- LARGE
  低音を効果的に再生する大きなスピーカーをつなぐ場合は、「LARGE」を選びます。通常は「LARGE」を選びます。

• SMALL
マルチチャンネルサラウンドで音声を出している場合に、音声が歪んだり、サラウンド効果が不充分に感じるときは、「SMALL」を選んで、低音リダイレクト回路を有効にし、各チャンネルの低音をアクティブサブウーファーまたは「LARGE」に設定した他のスピーカーから出力します。

ご注意

この機能は、「A. DIRECT」が選ばれているときは働きません。

ちょっと一言

- 各スピーカーの「LARGE」および「SMALL」の設定によって、内部のサウンドプロセッサーがチャンネルの低音信号をカットするかどうかが決まります。
チャンネルからの低音がカットされると、低音リダイレクト回路により、該当する低域周波数がアクティブサブウーファーまたは「LARGE」に設定された他のスピーカーに送信されます。
しかし、低音には一定の指向性があるため、できればカットしたくないものです。したがって、小型のスピーカーを使用するときでも、低音を出力したい場合は、「LARGE」に設定することができます。逆に、大きなスピーカーを使用していても、できればそのスピーカーから低音を出力したくない場合は、「SMALL」に設定してください。
全体の音量が小さい場合は、すべてのスピーカーを「LARGE」に設定してください。低音感が足りない場合は、イコライザーで低域を上げることができます。詳しくは、59ページをご覧ください。
- サラウンドバックスピーカーの設定はサラウンドスピーカーと同じになります。
- フロントスピーカーの設定を「SMALL」にすると、センター、サラウンド、フロントハイスピーカーも自動的に「SMALL」に設定されます。
- アクティブサブウーファーを使用しない場合は、フロントスピーカーは自動的に「LARGE」に設定されます。

■ FL DIST.、FR DIST.、CNT DIST.、SL DIST.、SR DIST.、SB DIST.、SBL DIST.、SBR DIST.、LH DIST.、RH DIST.、SW DIST.

視聴位置から各スピーカー（フロント右／左、センター、サラウンド右／左、サラウンドバック右／左、フロントハイ右／左、アクティブサブウーファー）までの距離を調節できます。
左右のフロントスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に配置されていない場合は、近いほうのスピーカーまでの距離を設定します。

ご注意

- スピーカーパターンの設定によっては、使用できないパラメーターがあります。
- この機能は、「A. DIRECT」が選ばれているときは働きません。

■ DIST.UNIT

距離を設定する際の測定単位を選ぶことができます。

- METER
距離はメートル単位で表示されます。
- FEET
距離はフィート単位で表示されます。

■ FRT CRS.、CNT CRS.、SUR CRS.、FH CRS.

SPEAKER メニューで「SMALL」に設定されているスピーカーの低音域のクロスオーバー周波数を調節できます。

SURROUND メニュー

■ EFFECT

「HD-D.C.S.」のエフェクトタイプを選ぶことができます。各タイプは反響音と残響音の異なるミックスレベルが設定されており、鑑賞者の部屋の特性や好み、雰囲気に合わせて最適な調節をすることができます。

• DYNAMIC
残響は多い反面、広々とした雰囲気に欠ける環境（音が充分に吸収されていない環境）に適しています。反射音を強調し、大型で古いタイプの映画館の音を再現します。ダビングシアターの広々とした雰囲気が強調され、独特の音場が作り出されます。
• THEATER
一般のリビング向けです。映画館（ダビングシアター）のような残響を再現します。ブルーレイディスクに録画されたコンテンツを映画館の雰囲気で鑑賞したいときに最も適しています。
• STUDIO
適切な音響機器を備えたリビングに適しています。劇場用音源を、ブルーレイディスク用として家庭での鑑賞に適した音量にリミックスしたときに付与される残響感を再現します。反射、残響は最小限のレベルに抑えられますが、セリフやサラウンド効果は生き生きと再生されます。

EQ メニュー

フロントスピーカーの音質（低域／高域のレベル）を調整できます。

■ BASS

■ TREBLE

ご注意

この機能は、「A. DIRECT」が選ばれているときは働きません。

TUNER メニュー

FM 放送局の受信モードを設定し、プリセットした放送局に名前を付けることができます。

■ FM MODE

• STEREO
ラジオの放送局がステレオで放送している場合は、信号をステレオ信号としてデコードします。
• MONO
放送されている信号にかかわらず、信号をモノラル信号としてデコードします。

■ NAME IN

プリセットした放送局に名前を付けることができます。詳しくは、「プリセットした放送局に名前を付ける」（40 ページ）をご覧ください。

AUDIO メニュー

お好みに合わせて音声の設定を調節できます。

■ A/V SYNC

音声出力を遅らせて、音声と映像のずれを最小限に調節できます。大画面の液晶ディスプレイやプラズマモニター、またはプロジェクターをお使いの場合に便利な機能です。
• SYNC ON（遅延時間：60 ms）
音声出力を遅らせて、音声と映像のずれをできるだけなくします。
• SYNC OFF（遅延時間：0 ms）
音声出力に遅れは発生しません。

ご注意

• この機能は、「A. DIRECT」が選ばれているときは働きません。
• 遅延時間は、音声フォーマット、サウンドフィールド、スピーカーパターン、スピーカーまでの距離などの設定によって変わることがあります。

■ DUAL

デジタル放送で聞きたい言語を選ぶことができます（利用可能な場合）。この機能は、ソースがドルビーデジタルとMPEG-2 AAC のときのみ働きます。
• MAIN/SUB
フロントスピーカー（左）から主音声、フロントスピーカー（右）から副音声が同時に出力されます。
• MAIN
主音声が出力されます。
• SUB
副音声が出力されます。

つづく

■ A. ASSIGN
DIGITAL 音声入力端子を他の入力源に割り当てることができます。詳しくは、「他の映像／音声入力端子を使う」（50 ページ）をご覧ください。

■ NIGHT M.
小さな音量でも映画館のような環境を作り出すことができます（10 ページ）。
- NIGHT. ON
- NIGHT.OFF

VIDEO メニュー

■ V. ASSIGN
COMPONENT VIDEO 入力端子を他の入力源に割り当てることができます。詳しくは、「他の映像／音声入力端子を使う」（50 ページ）をご覧ください。

HDMI メニュー

HDMI 端子につないだ機器に必要な設定を行うことができます。

■ CTRL.HDMI
HDMI 機器制御機能のオン／オフを切り換えることができます。詳しくは、「“ブラビアリンク”機能」（44 ページ）をご覧ください。

■ PASS.THRU
本機がスタンバイ状態でも HDMI 信号をテレビに出力できるようにします。
- ON
  本機がスタンバイ状態でも、本機の HDMI TV OUT 端子から HDMI 信号を出力し続けます。
- AUTO
  本機がスタンバイ状態のときにテレビの電源を入れると、HDMI TV OUT 端子から HDMI 信号を出力します。
  “ブラビアリンク”対応のソニー製テレビをお使いの場合、この設定をおすすめします。この設定にすると、「ON」設定時よりもスタンバイ状態時の消費電力を抑えることができます。
- OFF
  スタンバイ状態時に HDMI 信号を出力しません。つないだ機器のソースをテレビで楽しむ場合には、本機の電源を入れてください。この設定にすると、「ON」設定時よりもスタンバイ状態時の消費電力を抑えることができます。

ご注意
- このパラメーターは、「CTRL.HDMI」が「CTRL OFF」に設定されているときは使用できません。
- 「AUTO」設定時は、「ON」に設定した場合よりも映像と音声がテレビに出力されるまでに時間がかかることがあります。
- 本機がスタンバイ状態のときに、「PASS.THRU」が「AUTO」または「ON」に設定されている場合は、表示窓に「A.STANDBY」が表示されます。「PASS.THRU」が「AUTO」に設定されていても、信号が検出されないときには、「A.STANDBY」の表示が消えます。

■ AUDIO.OUT
本機と HDMI 接続した再生機器からの HDMI 音声の出力先を設定できます。
- AMP
  再生機器からの HDMI 音声信号は本機につないだスピーカーにのみ出力されます。マルチチャンネルの音声をそのまま再生可能です。
- TV+AMP
  音声を本機につないだスピーカーとテレビのスピーカーの両方から再生します。

ご注意
- 再生機器の音質は、チャンネル数、サンプリング周波数など、テレビの音質によって異なります。テレビがステレオ（2ch）スピーカーの場合は、マルチチャンネルのソースを再生しても、本機の音声出力はテレビと同じステレオ（2ch）になります。
- 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機につないだスピーカーから音が出力されない場合があります。この場合は、「AMP」に設定してください。

■ S. FIELD
デジタル放送のテレビ番組を視聴するときに、オートジャンルセレクターを設定できます。詳しくは、「デジタル放送のジャンルに応じて、サラウンド効果を自動的に切り換える（オートジャンルセレクター）」（47 ページ）をご覧ください。

■ H. ASSIGN
HDMI 入力端子を他の入力源に割り当てることができます。詳しくは、「他の映像／音声入力端子を使う」（50 ページ）をご覧ください。

SYSTEM メニュー

本機の設定をカスタマイズできます。

■ AUTO.STBY
操作や信号の入力がないときに、本機が自動的にスタンバイ状態に切り換わるように設定することができます。

- STBY ON
  約 30 分後にスタンバイ状態に切り換えます。
- STBY OFF
  スタンバイ状態に切り換えません。

ご注意
- この機能は、TUNER 入力が選ばれているときは働きません。
- オートスタンバイ機能とスリープタイマーが同時に設定されている場合は、スリープタイマーが優先されます。

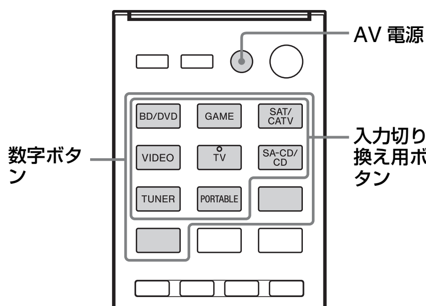
■ NAME IN
入力に名前を付けることができます。詳しくは、「入力に名前を付ける」（35 ページ）をご覧ください。

リモコンを使う

入力切り換え用ボタンの割り当てを変更する

お使いの機器に合わせて入力切り換え用ボタンの初期設定を変更することができます。例えば、ブルーレイディスクプレーヤーを本機の SAT/CATV 端子につないだ場合、ブルーレイディスクプレイヤーを操作できるようにリモコンの SAT/CATV ボタンを設定することができます。

ご注意
TV、TUNER、および PORTABLE 入力切り換え用ボタンの割り当ては変更できません。



1 割り当てを変更したい入力切り換え用ボタンを押したまま、AV 電源を長押しする。

例：SAT/CATV を押したまま、
AV 電源を長押しする。

2 AV 電源ボタンを押したまま、選んだ入力切り換え用ボタンをはなす。

例：AV 電源ボタンを押したまま、
SAT/CATV をはなす。

つづく

3 下記の表を参照し、使いたい機器の種類に対応するボタンを押し、AV 電源をはなす。

例：1 を押して、AV 電源をはなす。SAT/CATV ボタンでブルーレイディスクプレーヤーを操作できるようになります。

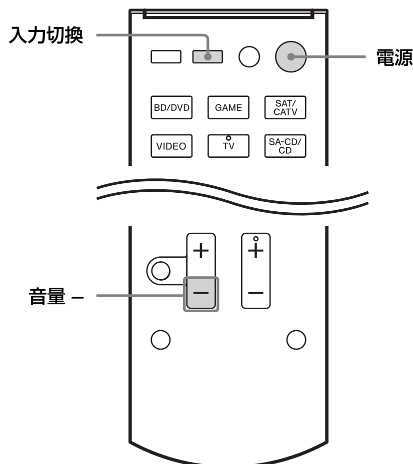
種類	押すボタン
ブルーレイディスクプレーヤー（コマンドモード BD1）[a]	1
ブルーレイディスクレコーダー（コマンドモード BD3）[a]	2
DVD プレーヤー（コマンドモード DVD1）	3
DVD レコーダー（コマンドモード DVD3）[b]	4
ビデオデッキ（コマンドモード VTR3）[c]	5
CD プレーヤー	6
デジタル CS チューナー	7

[a] BD1 または BD3 の設定について詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤーまたはブルーレイディスクレコーダーの取扱説明書を参照してください。

[b] ソニー製の DVD レコーダーは DVD1 または DVD3 の設定で操作できます。詳しくは、DVD レコーダーに付属の取扱説明書を参照してください。

[c] ソニー製のビデオデッキは、VHS に対応する VTR3 の設定で操作できます。

入力切り換え用ボタンを初期設定に戻す



1 音量 – を押したまま、電源と入力切換を押す。

2 すべてのボタンをはなす。

入力切り換え用ボタンが初期設定の状態に戻ります。

使用上のご注意

安全について

キャビネットに固い物体が落とされたり、液体がかかったりした場合は、使用を中止し、本体の電源プラグを抜いて保守要員が点検してください。

電源について

- ご使用前に、本機の動作電圧が地域の使用電圧と同じであることを確かめてください。
  動作電圧は本体裏面の銘板に表示されています。
- 本機の電源を切っても、電源コードが壁のコンセントにつないがれている間は、電源が完全に遮断されるわけではありません。
- 長期間本機を使用しない場合は、必ず本機の電源コードを壁のコンセントから抜いてください。電源コードを壁のコンセントから抜く場合は、絶対にコードを引っ張らず、プラグを持って抜いてください。
- 電源コードは正規のサービス店以外で交換しないでください。

温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。特に、大音量で使用し続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。
また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しのよい所でお使いください。

設置場所について

- 電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。次のような場所には置かないでください。
  – ぐらついた台の上や不安定な場所。
  – じゅうたんや布団の上。
  – 湿気の多い所、風通しの悪い所。
  – ほこりの多い所。
  – 密閉された所。
  – 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
  – 極端に寒い所。
  – テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所。
  （テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）
- 本機をワックス、オイル、研磨処理など特殊処理を施した台や床面に置く場合は、表面が汚れたり、変色したりする可能性があるため、ご注意ください。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

使用について

他の機器をつなぐ前に、必ず本機の電源を切り、電源コードを抜いてください。

つづく

お手入れについて

キャビネットやパネル面、操作部は、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

本機についてご質問や問題がある場合は、お近くのソニー販売店へお問い合わせください。

故障かな？と思ったら

本機の使用中に以下の問題が発生した場合は、このトラブルシューティングガイドをご覧になり、問題の改善に役立ててください。それでも問題が解決しない場合は、お近くのソニー販売店へお問い合わせください。

電源

本機の電源が自動的に切れる

- 「AUTO.STBY」が「STBY ON」に設定されている（61 ページ）。
- スリープタイマー機能が働いている（11 ページ）。

映像

テレビに映像が表示されない

- 入力切り換え用ボタンで適切な入力を選ぶ。
- テレビを適切な入力モードに設定する。
- テレビからオーディオ機器を離す。
- HDMI および COMPONENT VIDEO 入力端子の割り当てを正しく設定する。
- ケーブルが正しく、しっかりと機器につながっているか確認する。
- 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- 特に解像度が 1080p の映像や Deep Color または 3D の映像を視聴するときは、必ずハイスピード HDMI ケーブルを使用してください。

テレビに 3D 映像が表示されない

- テレビまたは映像機器によっては、3D の映像が表示されないことがあります。

本機のスタンバイ状態時に、テレビから映像が出ない

- 本機がスタンバイ状態になると、本機の電源を切る前に選択した HDMI 機器から映像が出ます。他の機器を楽しむ場合は、その機器を再生してワンタッチプレイ操作を行うか、本機の電源を入れて、お好みの HDMI 機器を選択してください。
- “ブラビアリンク”に対応していない機器を本機につなぐ場合は、HDMI メニューの「PASS.THRU」が「ON」に設定されていることを確認してください（60 ページ）。

録画ができない

- 機器が正しくつながっているか確認する。
- 入力切り換え用ボタンでソース機器を選ぶ（35 ページ）。
- HDMI IN および COMPONENT VIDEO IN 端子から入力された映像信号は録画できません。
- 一部のソースにはコピー防止信号が含まれています。このような場合は、ソースからの録画ができないことがあります。

音声

機器を選んでいるかどうかにかかわらず、音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- すべての接続コードが、本機、スピーカー、機器のそれぞれの入力／出力端子に差し込まれているか確認する。
- 本機とすべての機器の電源が入っているか確認する。
- MASTER VOLUME つまみが「VOL MIN」に設定されていないか確認する。
- ヘッドホンがつながれていないか確認する。
- リモコンの消音を押して、消音機能を解除する。
- リモコンの入力切り換え用ボタンを押すか、本体の INPUT SELECTOR つまみを回して、お好みの機器を選ぶ（35 ページ）。
- テレビのスピーカーから音声を聞きたいときは、HDMI メニューの「AUDIO.OUT」を「TV+AMP」に設定してください（60 ページ）。マルチチャンネル音声のソースを再生できない場合は、「AMP」に設定してください。ただし、この場合、音声はテレビのスピーカーからは出力されません。
- 再生機器から出力される音声信号のサンプリング周波数、チャンネル数、または音声フォーマットが切り換わったときに、音声が途切れる場合があります。

ハム音またはノイズがひどい

- スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
- 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯から少なくとも 3 メートル離れているか確認する。
- テレビからオーディオ機器を離す。
- プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿らせた布で拭き取る。

特定のスピーカーから音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- ヘッドホンを PHONES 端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認する。ヘッドホンから片方のチャンネルしか出力されていない場合は、すべてのコードが本機と機器の端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。両方のチャンネルがヘッドホンから出力されている場合は、音が出ないフロントスピーカーの接続を確認してください。
- アナログ機器の L 端子と R 端子の両方に接続しているか確認してください。アナログ機器は L と R の両方の端子に接続する必要があります。音声コード（別売）をご使用ください。
- AUTO CAL メニューまたは SPEAKER メニューの「PATTERN」でスピーカーの設定が適切か確認する。その後、LEVEL メニューの「T. TONE」を使って、各スピーカーから正しく音が出力されているか確認する（34 ページ）。
- スピーカーのレベルを調節する（53 ページ）。
- アクティブサブウーファーが正しく、確実に接続されているか確認する。
- アクティブサブウーファーの電源が入っているか確認する。
- 選んだサウンドフィールドによっては、アクティブサブウーファーから音がでないことがあります。
- すべてのスピーカーが「LARGE」に設定されており、「NEO6 CIN」または「NEO6 MUS」が選ばれているときは、アクティブサブウーファーから音が出ません。
- ディスクによっては、ドルビーデジタルサラウンド EX フラグが含まれていないものがあります。

特定の機器から音が出ない

- 選んだ機器が、対応する音声入力端子に正しく接続されているか確認する。

つづく

- 接続に使用されているコードが、本機と機器の端子に確実に差し込まれているか確認する。
- HDMI メニューの「AUDIO.OUT」の設定を確認する（60 ページ）。
- 選んだ機器が、対応する HDMI 端子に正しく接続されているか確認する。
- HDMI 接続でスーパーオーディオ CD を聞くことはできません。
- 再生機器によっては、機器側で HDMI 設定が必要な場合があります。各機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- 特に解像度が 1080p の映像や Deep Color または 3D の映像を視聴するときは、必ずハイスピード HDMI ケーブルを使用してください。
- HDMI 端子から伝送された音声信号（フォーマット、サンプリング周波数、ビット長など）はつないだ機器によって制限されることがあります。HDMI ケーブルでつないだ機器からの映像が明瞭でなかったり、音声が出なかったりする場合は、つないだ機器の設定を確認してください。
- つないだ機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していない場合、本機の HDMI TV OUT 端子からの映像や音声が歪んだり、出力されないことがあります。このような場合は、接続機器の仕様をご確認ください。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD) を楽しむには、再生機器の映像解像度を 720p/1080i 以上に設定してください。
- マルチチャンネルリニア PCM を楽しむには、再生機器の映像解像度の設定が必要な場合があります。再生機器の取扱説明書を参照してください。
- テレビがシステムオーディオコントロール機能に対応していることを確認する。
- テレビにシステムオーディオコントロール機能がないときは、HDMI メニューの「AUDIO.OUT」の設定を下記のように設定する。
  - テレビと本機につないだスピーカーから音を聞きたい場合は、「TV+AMP」。
  - 本機につないだスピーカーから音を聞きたい場合は、「AMP」。
- 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機につないだスピーカーから音が出力されない場合があります。この場合は、HDMI メニューの「AUDIO.OUT」を「AMP」に設定してください。
- テレビの入力が選ばれているのに、本機につないだ機器の音声が聞こえない場合
  - HDMI 接続で本機につないだ機器のプログラムを視聴したいときは、必ず本機の入力を HDMI に変更してください。
  - テレビ放送を視聴したいときは、テレビのチャンネルを切り換えてください。
  - テレビにつないだ機器のプログラムを視聴したいときは、必ず視聴したい機器または入力を選んでください。この操作についてはテレビの取扱説明書を参照してください。
- インプットモードを確認する（49 ページ）。
- 「A. DIRECT」が選ばれていないか確認する。
- HDMI 機器制御機能を使用している場合、つないだ機器をテレビのリモコンで操作することはできません。
  - つないだ機器およびテレビによっては、機器側とテレビ側で設定が必要な場合があります。各機器とテレビに付属の取扱説明書を参照してください。
  - 本機の入力を機器に接続した HDMI 入力に切り換えてください。
- 選んだデジタル音声入力端子の割り当てが他の入力に変更されていないか確認してください（50 ページ）。

左右の音のバランスが悪い、または逆転している

- スピーカーおよび各機器が正しく、確実に接続されているか確認する。
- LEVEL メニューでレベルパラメーターを調整する。

ドルビーデジタル、DTS または AAC マルチチャンネルの音声が再生されない

- 再生中の DVD などが、ドルビーデジタルまたは DTS 形式で録音されているか確認する。
- DVD プレーヤーなどを本機のデジタル入力端子につないでいるときは、つないだ機器のデジタル音声の出力設定が有効になっているか確認する。
- HDMI メニューで「AUDIO.OUT」を「AMP」に設定する。
- High Bitrate Audio (DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD)、マルチチャンネルリニア PCM は、HDMI 接続でのみ楽しめます。

サラウンド効果が得られない

- 映画用または音楽用のサウンドフィールドを選んでいるか確認する（41 ページ）。
- サンプリング周波数が 48 kHz より大きい DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、または Dolby TrueHD を受信している場合は、サウンドフィールドが働きません。

録音ができない

- 機器が正しくつながっているか確認する。
- 入力切り換え用ボタンでソース機器を選ぶ（35 ページ）。
- HDMI IN および DIGITAL IN 端子から入力された音声信号は録音できません。
- 一部のソースにはコピー防止信号が含まれています。このような場合は、ソースからの録音ができないことがあります。

本機のスタンバイ状態時に、テレビから音声が出ない

- 本機がスタンバイ状態になると、本機の電源を切る前に選択した HDMI 機器から音声が出ます。他の機器を楽しむ場合は、その機器を再生してワンタッチプレイ操作を行うか、本機の電源を入れて、お好みの HDMI 機器を選択してください。
- “ブラビアリンク”に対応していない機器を本機につなぐ場合は、HDMI メニューの「PASS.THRU」が「ON」に設定されていることを確認してください（60 ページ）。

PORTABLE IN 端子につないだ機器からハム音、断続的なノイズまたは歪んだ音が出る

- 機器がしっかりとつながれているか確認する。
- これは故障ではありません。音声の出力状態はつないでいる機器に応じて異なります。

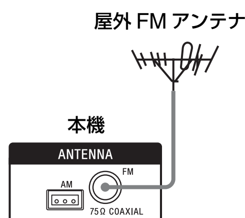
チューナー

FM 放送の受信状態が悪い

- 75Ω 同軸ケーブル（別売）を使って、下図のように本機と屋外 FM アンテナをつなぐ。

屋外 FM アンテナ

本機



放送局が受信できない

- アンテナがしっかりとつながれているか確認する。アンテナを調節したり、必要に応じて外部アンテナを使う。
- 自動受信で受信状態が悪い（放送局の信号が弱い）場合は、手動受信する。

つづく

- プリセットされた放送局がない、またはプリセットした放送局を消去してしまった（プリセットした放送局をスキャンして受信している場合）。この場合は、放送局をプリセットする（39 ページ）。
- 画面表示をくり返し押して、表示窓で周波数を確認する。

“ブラビアリンク”（HDMI 機器制御機能）

HDMI 機器制御機能が働かない

- HDMI 接続を確認する（20、21 ページ）。
- HDMI メニューで「CTRL.HDMI」が「CTRL ON」に設定されていることを確認する。
- つないだ機器が HDMI 機器制御機能に対応していることを確認する。
- つないだ機器の HDMI 機器制御機能の設定を確認する。接続機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- 「CTRL.HDMI」が「CTRL OFF」に設定されているときは、機器が HDMI IN 端子に接続されている場合でも、“ブラビアリンク”は正しく機能しません。
- “ブラビアリンク”で制御できる機器の種類と数は、HDMI CEC 規格で以下のとおり制限されています。
  – 録画機器（ブルーレイディスクレコーダー、DVD レコーダーなど）：3 台まで
  – 再生機器（ブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーなど）：3 台まで
  – チューナー関連機器：4 台まで
  – AV レシーバー（オーディオシステム）：1 台まで

リモコン

リモコンで操作できない

- リモコンを本体のリモコン受光部に向けて操作する。
- リモコンと本体の間にある障害物を取り除く。
- リモコンの乾電池が消耗している場合は、新しいものに交換する。
- リモコンで正しい入力を選んだか確認する。

エラーメッセージ

本機に異常がある場合は、表示窓にメッセージが表示されます。メッセージによって本機の状態を確認できます。問題が解決しない場合は、お近くのソニー販売店にご相談ください。
エラーメッセージが自動音場補正実行中に表示された場合は、「エラーコードが表示される場合は」（33 ページ）をご覧になり、問題を解決してください。

PROTECT

異常な電流がスピーカーに出力されているか、本機が何かで覆われ、通気孔がふさがれています。数秒後に本機の電源が自動的に切れます。本機の天板をふさいでいるものを取り除き、スピーカーの接続を確認して、もう一度電源を入れてください。

メモリを消去する

参照セクション

削除対象	参照ページ
メモリに保存されたすべての設定	28 ページ
カスタマイズしたサウンドフィールド	44 ページ

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- お保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう 1 度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後 8 年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

部品の交換について

この製品では、修理のために部品を交換する際に、旧部品を回収させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：STR-DH530
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

ステレオモード（6 Ω、JEITA）：
140 W + 140 W

サラウンドモード（6 Ω、JEITA）：
フロント部：
140 W + 140 W
センター部：140 W
サラウンド部：
140 W + 140 W
サラウンドバック／フロントハイ部：
140 W + 140 W

スピーカー適合インピーダンス
フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック／フロントハイ部：
6 Ω またはそれ以上

つづく

高調波ひずみ率	0.09% 以下 20 Hz ～ 20 kHz （6 Ω 負荷） 85 W + 85 W
周波数特性	10 Hz ～ 70 kHz ± 3 dB（6 Ω 時） （サウンドフィールド、イコライザー無効時）

入力

アナログ（PORTABLE IN）	感度：1 V/50 kΩ S/N 比[1]：96 dB （A、500 mV[2]）
アナログ（PORTABLE IN 以外）	感度：500 mV/50 kΩ S/N 比[1]：96 dB （A、500 mV[2]）
デジタル（同軸）	インピーダンス：75 Ω S/N 比：100 dB （A、20 kHz LPF）
デジタル（光）	S/N 比：100 dB （A、20 kHz LPF）

出力（アナログ）

AUDIO OUT	電圧：500 mV/1 kΩ
SUBWOOFER	電圧：2 V/1 kΩ

イコライザー

ゲインレベル	± 10 dB、1 dB 単位

[1]INPUT SHORT（サウンドフィールド、イコライザー無効時）
[2]重み付きネットワーク、入力レベル

FM チューナー部

受信範囲	76.0 MHz ～ 90.0 MHz
アンテナ	FM アンテナ線
アンテナ端子	75 Ω、不平衡型

AM チューナー部

受信範囲	531 kHz ～ 1,602 kHz （9 kHz 間隔）
アンテナ	ループアンテナ

ビデオ部

入力／出力

Video：	1 Vp-p、75 Ω
COMPONENT VIDEO：	Y：1 Vp-p、75 Ω P_B：0.7 Vp-p、75 Ω P_R：0.7 Vp-p、75 Ω 80 MHz HD パススルー

電源、その他

電源	AC 100 V、50/60 Hz
消費電力	170 W
消費電力（スタンバイ状態時）	0.3 W （「CTRL.HDMI」を「CTRL OFF」に設定時）
寸法（幅／高さ／奥行き）（約）	430 mm × 157.5 mm × 322 mm（最大突起部を含む）
質量	約 7.6 kg

仕様および外観は、予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。



省エネルギー ● オートオフ機能搭載

索引

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。

http://www.sony.jp/support/

使い方相談窓口

フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥‥0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥‥0466-31-2511

修理相談窓口

フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥‥0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥‥0466-31-2531

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Sony Corporation　Printed in Malaysia



* 4 4 1 5 8 9 4 0 2 * (1)